

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年3月25日
【事業年度】	第34期（自平成24年1月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	オプテックス株式会社
【英訳名】	OPTEX Company,Limited
【代表者の役職氏名】	取締役会長兼代表取締役社長 小林 徹
【本店の所在の場所】	滋賀県大津市におの浜四丁目7番5号 （同所は登記上の本店所在地で、実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	滋賀県大津市雄琴五丁目8番12号
【電話番号】	077(579)8000(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役兼執行役員管理本部長 東 晃
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第30期 平成20年12月	第31期 平成21年12月	第32期 平成22年12月	第33期 平成23年12月	第34期 平成24年12月
売上高(百万円)	20,916	15,124	17,395	18,502	20,699
経常利益(百万円)	2,489	735	1,761	1,830	1,680
当期純利益(百万円)	1,004	332	981	1,033	825
包括利益(百万円)	-	-	-	919	1,772
純資産額(百万円)	18,074	18,013	17,925	18,304	19,532
総資産額(百万円)	21,391	20,735	21,405	21,889	23,664
1株当たり純資産額(円)	1,020.22	1,021.52	1,016.57	1,035.75	1,107.53
1株当たり当期純利益(円)	59.74	20.07	59.30	62.45	49.88
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益(円)	59.72	-	-	62.42	49.87
自己資本比率(%)	79.0	81.5	78.6	78.3	77.5
自己資本利益率(%)	5.7	2.0	5.8	6.1	4.7
株価収益率(倍)	13.4	42.0	20.4	16.2	20.0
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,764	1,989	1,818	1,375	1,640
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,724	730	1,212	524	1,371
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,033	651	379	540	312
現金及び現金同等物の期末残 高(百万円)	5,683	6,447	6,343	6,523	6,912
従業員数(人)	1,085 [64]	1,031 [47]	1,127 [55]	1,120 [70]	1,124 [66]

(注) 1. 上記金額には消費税及び地方消費税(以下「消費税等」という)は含まれておりません。

2. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は[]内に外数で記載しております。

3. 第31期及び第32期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第30期 平成20年12月	第31期 平成21年12月	第32期 平成22年12月	第33期 平成23年12月	第34期 平成24年12月
売上高(百万円)	11,485	8,510	8,883	9,105	9,424
経常利益(百万円)	1,359	622	700	1,089	1,078
当期純利益(百万円)	493	363	341	809	467
資本金(百万円)	2,798	2,798	2,798	2,798	2,798
発行済株式総数(株)	16,984,596	16,984,596	16,984,596	16,984,596	16,984,596
純資産額(百万円)	14,653	14,507	14,342	14,623	14,663
総資産額(百万円)	16,337	16,126	16,162	16,688	17,009
1株当たり純資産額(円)	884.77	876.02	866.06	883.03	885.50
1株当たり配当額(円) (内1株当たり中間配当額)	40.00 (20.00)	30.00 (15.00)	30.00 (15.00)	30.00 (15.00)	30.00 (15.00)
1株当たり当期純利益(円)	29.31	21.97	20.62	48.89	28.20
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益(円)	29.30	-	-	-	-
自己資本比率(%)	89.7	90.0	88.7	87.6	86.2
自己資本利益率(%)	3.3	2.5	2.4	5.6	3.2
株価収益率(倍)	27.4	38.3	58.5	20.6	35.5
配当性向(%)	136.5	136.5	145.5	61.4	106.4
従業員数(人)	251 [34]	253 [21]	260 [19]	268 [21]	267 [20]

(注) 1. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は[]内に外数で記載しております。

3. 第31期、第32期、第33期及び第34期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【沿革】

年月	沿革
昭和54年5月	滋賀県大津市において、当社取締役社長 小林 徹、元取締役副社長 有本 達也が自動ドア用センサ、防犯用センサの開発、販売のため資本金1,200万円をもってオプテックス株式会社を設立
昭和58年5月	自動ドア用センサ及び防犯用センサの生産を強化するため、福井県丹生郡清水町（現福井市三留町）にオフロム株式会社をサンエー電機株式会社との共同出資にて設立
昭和59年3月	本社ビルを滋賀県大津市におの浜四丁目に新築し移転
昭和60年9月	当社製品の米国での直接販売のため、カリフォルニア州にOPTEX(U.S.A.), INC. を設立
昭和61年7月	東京都千代田区に東京営業所（現東京都新宿区）を設置
平成元年4月	光電センサの開発を強化するため、京都市下京区に西ドイツエルヴィン・ジック社（現ドイツ ジック A G社）との合弁会社ジックオプテックス株式会社を設立
平成2年1月	従業員の福利厚生を促進するため、滋賀県大津市にスポーツクラブの運営を主とするオーバルオプテックス株式会社（現連結子会社）を設立
6月	滋賀県大津市に技術センターを開設
平成3年5月	ヨーロッパ地域の輸出の拡大とニーズの把握を図るための販売拠点として、イギリスバークシャー州にOPTEX(EUROPE), LTD.（現連結子会社）を設立
7月	社団法人日本証券業協会に株式を店頭登録
平成4年4月	コントロールパネルのシステム化による総合セキュリティメーカーへの展開を図るため、MORSE SECURITY GROUP, INC. を買収し、OPTEX MORSE, INC.（米国カリフォルニア州）として発足、同時に米国の子会社を管理、統括するOPTEX AMERICA, INC. を同州に設立
平成6年2月	部材調達のため、香港にOPTEX(H.K.), LTD.（現連結子会社）を設立
平成9年1月	アジア地域への販売及び部材調達のため、台湾台北市にOPTEX ELECTRONICS (TAIWAN), LTD. を設立
2月	OPTEX MORSE, INC. がOPTEX AMERICA, INC. と合併
6月	OPTEX MORSE, INC. がOPTEX(U.S.A.), INC. と合併
平成10年7月	OPTEX MORSE, INC. がOPTEX AMERICA, INC. に社名変更
平成11年7月	コントロールパネル事業からの撤退を決定し、OPTEX AMERICA, INC. を清算、新たに米国カリフォルニア州にセンサとシステム事業に特化したOPTEX INCORPORATED（現連結子会社）を設立
平成13年8月	株式会社東京証券取引所市場第二部に上場
平成13年11月	OPTEX(EUROPE), LTD.（現連結子会社）が、イギリスSECURITY ENCLOSURES, LTD. の全株式を取得し子会社化
平成14年1月	光電センサ事業を会社分割し、京都市山科区にオプテックス・エフエー(株)（現連結子会社）を設立（現京都市下京区）
平成15年2月	韓国ソウル市に現地法人OPTEX KOREA CO., LTD.（現連結子会社）を設立
4月	フランスサルバニユに現地法人OPTEX SECURITY SAS（現連結子会社）を設立（現フランス アルナス）
6月	株式会社東京証券取引所市場第一部に上場
平成16年3月	滋賀県大津市雄琴に本社新社屋を竣工
4月	来客者数管理システム技術の獲得と融合による事業拡大を目指し、技研トラステム(株)（現連結子会社）の全株式を取得し子会社化
12月	OPTEX INCORPORATED（現連結子会社）を防犯用製品に特化させ、自動ドア用製品の販売のため、米国カリフォルニア州に現地法人OPTEX TECHNOLOGIES INC.（現連結子会社）を設立
平成17年8月	東欧及びロシア地域への市場開拓を狙い、防犯用製品の販売拠点として、ポーランドワルシャワ市にOPTEX SECURITY Sp.z o.o.（現連結子会社）を設立
当社グループの生産体制を強化するため、中国広東省東莞市に現地法人OPTEX(DONGGUAN)CO., LTD.（現連結子会社）を設立	
	オプテックス・エフエー(株)（現連結子会社）が株式会社大阪証券取引所のヘラクレス市場（現 J A S D A Q（スタンダード）市場）に上場
平成18年4月	OPTEX(DONGGUAN)CO., LTD.（現連結子会社）が中国広東省深?市に深?営業所を開設
平成19年2月	オプテックス・エフエー(株)（現連結子会社）が日本エフ・エーシステム(株)（現連結子会社）を子会社化
3月	防犯用製品において、遠隔画像監視モニタリングサービスに必要な現場ニーズを収集し、製品開発に活かすためにイギリスFARSIGHT SECURITY SERVICES, LTD.（現連結子会社）を子会社化
4月	OPTEX TECHNOLOGIES INC.（現連結子会社）が米国ノースキャロライナ州に営業拠点を開設
平成20年2月	自動ドア用センサのヨーロッパ地域での販売強化を目指し、持分法適用関連会社であった SECUMATIC B.V.（平成20年9月1日付でOPTEX TECHNOLOGIES B.V.に商号変更（現連結子会社））の株式を追加取得し子会社化
8月	画像処理技術やファクトリーオートメーション分野の L S I 設計に強みを有する(株)ジーニック（現連結子会社）を子会社化
平成21年8月	OPTEX ELECTRONICS (TAIWAN), LTD. を清算結了
平成22年9月	米国に設立したFIBER SENSYS INC.（現連結子会社 平成22年7月設立）が、Fiber SenSys, LLC（米国オレゴン州）から光ファイバー侵入検知システムの開発・販売を主業とする事業を譲受
平成23年10月	ロシア連邦における防犯関連事業の一層の拡大と強化を図るため、モスクワにOPTEX SECURITY, LLC（現連結子会社）を設立
平成24年1月	監視カメラ用補助照明技術を獲得するため、RAYTEC LIMITED（現連結子会社）を子会社化
平成24年12月	インド国内の市場開拓を狙い、インドハリヤナ州に合弁会社OPTEX PINNACLE INDIA PRIVATE LIMITED（現連結子会社）を設立
	中南米市場におけるマーケティングサービス及び技術サポートの提供のため、ブラジルサンパウロ州にOPTEX DO BRASIL LTDA.（現連結子会社）を設立

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社（オプテックス株式会社）、子会社21社及び関連会社2社で構成されています。その主な事業内容は各種センサ及び同装置に関する各種システムの開発、設計並びに製造販売であり、当社グループのセグメント毎の主な事業内容及び主要な関係会社は、次のとおりであります。

< センシング事業 >

センシング事業は、当社及び連結子会社14社で構成されており、各社の事業概要は次のとおりであります。

- ・ 当社は、各種センサ及び同装置に関する各種システムの開発、設計を行い、製造関係会社及び外注業者により製造した製品を、国内においては主として代理店を通じて、海外においては、販売子会社あるいは代理店を通じて、ユーザーに販売しております。
- ・ OPTEX INCORPORATEDは、当社より防犯用製品の供給を受け北・中・南米地域に販売しております。
- ・ OPTEX DO BRASIL LTDA.は、中南米地域のマーケティングサービス及び技術サポートを行っております。
- ・ OPTEX TECHNOLOGIES INC.は、当社より自動ドア用製品の供給を受け北米地域に販売しております。
- ・ FIBER SENSYS INC.は、光ファイバー侵入検知システム用製品の開発を行い、外注業者により製造した製品を中東地域及び北米地域に販売しております。
- ・ RAYTEC SYSTEMS INC.は、RAYTEC LIMITEDの製品を主に北米地域に販売しております。
- ・ OPTEX (EUROPE), LTD.は、当社より防犯用製品の供給を受けイギリス国内を中心に販売しております。
- ・ FARSIGHT SECURITY SERVICES, LTD.は、遠隔画像監視関連システムを利用したサービス業務をイギリスにおいて行っております。
- ・ RAYTEC LIMITEDは、監視カメラ用補助照明の開発、製造を行いイギリスをはじめ世界各国に販売しております。
- ・ OPTEX SECURITY SASは、当社より防犯用製品の供給を受けフランス国内に販売しております。
- ・ OPTEX TECHNOLOGIES B.V.は、当社より自動ドア用・産業機器用製品の供給を受けヨーロッパ地域に販売しております。
- ・ OPTEX SECURITY Sp.z o.o.は、当社より防犯用製品の供給を受け東欧地域及びロシアに販売しております。
- ・ OPTEX SECURITY, LLCは、当社より防犯用製品の供給を受けロシア国内に販売しております。
- ・ OPTEX KOREA CO., LTD.は、当社より防犯用製品の供給を受け韓国国内に販売しております。
- ・ OPTEX PINNACLE INDIA PRIVATE LIMITEDは、当社より防犯用製品の供給を受けインド国内に販売しております。

< F A 事業 >

F A 事業は、連結子会社2社及び関連会社1社で構成されており、各社の事業概要は次のとおりであります。

- ・ オプテックス・エフエー(株)は、ファクトリーオートメーション用製品の開発、設計を行い、製造関係会社及び外注業者により製造した製品を国内外に販売しております。
- ・ 日本エフ・エーシステム(株)は、ファクトリーオートメーション用製品の開発、設計、製造を行い、製品を国内に販売しております。
- ・ 関連会社であるジックオプテックス(株)は、オプテックス・エフエー(株)からの開発委託に基づき、主にファクトリーオートメーション用製品の企画、開発を行っております。

< 生産受託事業 >

生産受託事業は、連結子会社2社及び関連会社1社で構成されており、各社の事業概要は次のとおりであります。

- ・ OPTEX (H.K.), LTD.は、OPTEX (DONGGUAN)CO.,LTD.が供給する製品を生産受託品として販売するとともに、部材の調達を行い、OPTEX (DONGGUAN)CO.,LTD.へ供給しております。
- ・ OPTEX (DONGGUAN)CO.,LTD.は、当社及びOPTEX (H.K.), LTD.より部材の供給を受け、各種製品の組立てを行いグループ内に製品を供給するとともに、中国国内において販売しております。
- ・ 関連会社であるオフロム(株)は、製造委託に基づき、各種製品の組立てを行い、グループ内に供給しております。

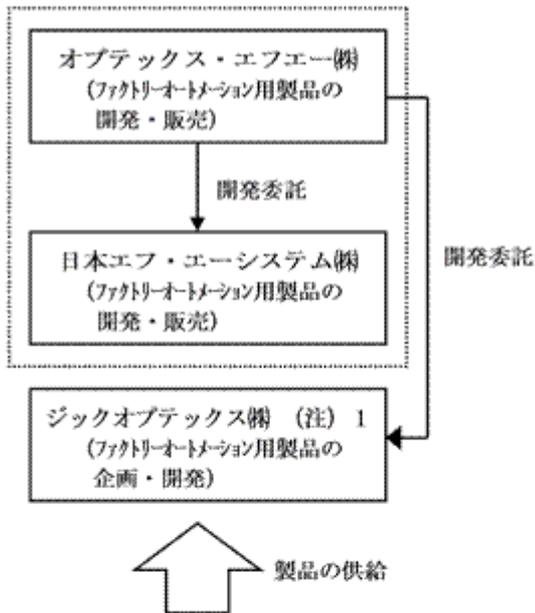
< その他 >

その他は、連結子会社3社で構成されており、各社の事業概要は次のとおりであります。

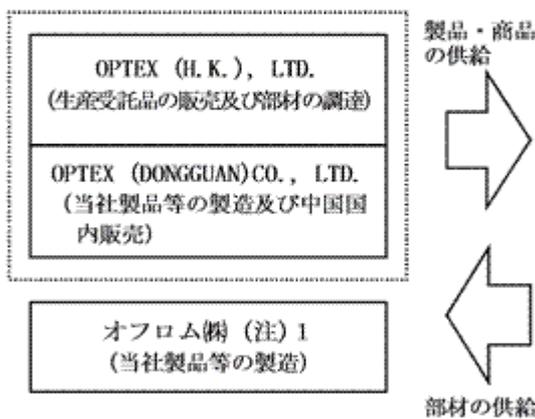
- ・ 技研トラステム(株)は、客数情報システム用製品の開発、設計を行い、製造関係会社及び外注業者により製造した製品を国内外に販売しております。
- ・ (株)ジーニックは、顧客からの開発委託に基づく画像処理関連のIC・LSIの開発、並びに自社ブランドIC（主としてファクトリーオートメーション用途）の設計・販売を行っております。
- ・ オーパルオプテックス(株)は、会員制スポーツクラブを運営しております。

当社グループにおける当社、連結子会社及び関連会社の位置づけ等は、次のとおりであります。

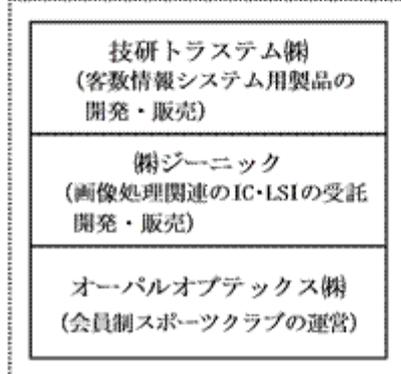
<FA事業>



<生産受託事業>



<その他>



<センシング事業>



オプテックス株式会社

(注) 1. 持分法適用関連会社

2. (注) 1. 以外はすべて連結子会社であります。

3. 平成24年1月にRAYTEC LIMITEDの全株式を取得し、同社を連結子会社といたしました。

4. RAYTEC SYSTEMS INC.は、RAYTEC LIMITEDの100%出資子会社であります。

5. 平成24年12月にOPTEX DO BRASIL LTDA.及びOPTEX PINNACLE INDIA PRIVATE LIMITEDを設立いたしました。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
連結子会社 オプテックス・エフエー(株)	京都市下京区	553百万円	F A 事業	54.3	役員の兼任等あり
日本エフ・エーシステム(株)	東京都品川区	80百万円	F A 事業	100.0 (100.0)	-
技研トラステム(株)	京都市伏見区	30百万円	その他	100.0	役員の兼任等あり
(株)ジーニック	滋賀県大津市	50百万円	その他	100.0	当社より建物の一部を賃借 役員の兼任等あり
OPTEX INCORPORATED	米国 カリフォルニア州	4,000千US\$	センシング事業	100.0	当社製品の販売 役員の兼任等あり
OPTEX DO BRASIL LTDA.	ブラジル サンパウロ州	2,250千BRL	センシング事業	100.0 (0.10)	当社製品のマーケティングサ ポート及び技術サポート 役員の兼任等あり
OPTEX TECHNOLOGIES INC.	米国 カリフォルニア州	1,000千US\$	センシング事業	100.0	当社製品の販売 役員の兼任等あり
FIBER SENSYS INC.	米国 オレゴン州	5,300千US\$	センシング事業	100.0	役員の兼任等あり
RAYTEC SYSTEMS INC.	カナダ オンタリオ州	108C\$	センシング事業	100.0 (100.0)	-
OPTEX (EUROPE),LTD.	イギリス パークシャー州	2,200千STG	センシング事業	100.0	当社製品の販売 役員の兼任等あり
FARSIGHT SECURITY SERVICES,LTD.	イギリス ケンブリッジシャー州	594千STG	センシング事業	100.0	役員の兼任等あり
RAYTEC LIMITED	イギリス ノーサンバーランド州	100STG	センシング事業	100.0	役員の兼任等あり
OPTEX SECURITY SAS	フランス アルナス	270千EUR	センシング事業	100.0	当社製品の販売 役員の兼任等あり
OPTEX TECHNOLOGIES B.V.	オランダ ハーグ市	64千EUR	センシング事業	51.0	当社製品の販売 役員の兼任等あり
OPTEX SECURITY Sp.z o.o.	ポーランド ワルシャワ市	3,500千PLN	センシング事業	100.0	当社製品の販売 役員の兼任等あり
OPTEX SECURITY,LLC	ロシア モスクワ市	10,000千RUB	センシング事業	100.0	当社製品の販売 役員の兼任等あり
OPTEX KOREA CO., LTD.	韓国 ソウル市	500,000千KRW	センシング事業	100.0	当社製品の販売 役員の兼任等あり
OPTEX PINNACLE INDIA PRIVATE LIMITED	インド ハリヤナ州	20,000千INR	センシング事業	80.0	当社製品の販売 役員の兼任等あり
OPTEX(H.K.),LTD.	中国 香港特別行政区	21,000千HK\$	生産受託事業	100.0	当社製品生産用部材の調達 役員の兼任等あり
OPTEX (DONGGUAN)CO.,LTD.	中国 広東省東莞市	6,500千US\$	生産受託事業	100.0	当社製品の製造及び販売、当社よ り部材を一部供給 役員の兼任等あり
オーバルオプテックス(株)	滋賀県大津市	80百万円	その他	100.0	当社より年会費を受領 当社より土地・建物を賃借 役員の兼任等あり
持分法適用関連会社 ジックオプテックス(株)	京都市下京区	150百万円	F A 事業	50.0 (50.0)	役員の兼任等あり
オフロム(株)	福井県福井市	20百万円	生産受託事業	30.0	当社製品の製造 当社より技術指導を受入 役員の兼任等あり

- (注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。
 2. 議決権の所有割合の()内は間接所有割合で内数であります。
 3. 上記の子会社の内、オプテックス・エフエー(株)、OPTEX INCORPORATED、FIBER SENSYS INC.、OPTEX (EUROPE),LTD.、OPTEX (H.K.),LTD.及びOPTEX (DONGGUAN)CO.,LTD.は、特定子会社に該当いたします。
 4. 上記の子会社の内、オプテックス・エフエー(株)は有価証券報告書を提出しております。
 5. オプテックス・エフエー(株)については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えておりますが、当該子会社は有価証券報告書提出会社であるため主要な損益情報の記載を省略しております。
 6. 平成24年1月にRAYTEC LIMITEDの全株式を取得し、同社を連結子会社といたしました。
 7. RAYTEC SYSTEMS INC.は、RAYTEC LIMITEDの100%出資子会社であります。
 8. 平成24年12月にOPTEX DO BRASIL LTDA.及びOPTEX PINNACLE INDIA PRIVATE LIMITEDを設立いたしました。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
センシング事業	405(32)
F A事業	101(4)
生産受託事業	537(0)
その他	81(30)
合計	1,124(66)

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を()内に外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成24年12月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
267(20)	40.9	13.9	6,713

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者は、年間の平均人員を()内に外数で記載しております。

2. 平均年間給与(税込み)は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。

3. 提出会社はセンシング事業の単一セグメントであり、提出会社の従業員は全てセンシング事業に所属しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度における我が国経済は、復興需要などを背景として緩やかながら回復基調であったものの、世界的な景気減速や歴史的な円高を受け、厳しい状況で推移しました。

また、海外におきましても米国景気の減速懸念や欧州における財政不安に加え、中国などの新興国経済の成長鈍化など、先行きの不透明感が未だに払拭されない状況が続いております。

このような経済情勢の下、当社グループは業績の拡大と業務の効率化による「生産性の倍増」を経営方針に掲げ、円高の影響を受けつつも、新製品の開発と投入による「コア事業の持続的成長」、「新興市場の開拓」、大型施設を中心とする「新規アプリケーションの開拓」など、事業活動を強化してまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は、206億99百万円と前年度に比べ11.9%の増収となりました。利益面につきましては、売上高増に伴い売上総利益が増加いたしました。販売地域や製品の構成比率が変化したことによる原価率の上昇や「中期経営計画」達成に向けた新製品開発、営業強化による販売促進など積極的な活動に伴う投資の実施により、営業利益は13億98百万円（前年度比16.6%減）、経常利益は16億80百万円（前年度比8.2%減）、当期純利益は8億25百万円（前年度比20.1%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

< センシング事業 >

当社グループの主力事業であるセンシング事業は、売上高139億64百万円（前年度比16.6%増）、営業利益9億67百万円（前年度比8.7%減）となりました。

防犯関連につきましては、売上高99億15百万円（前年度比22.8%増）となりました。国内におきましては、警備会社向け販売実績や大型重要施設向け屋外センサの受注が好調に推移し、前年実績を上回りました。一方、海外におきましては、長引く欧州市場の景気低迷と厳しい円高により、相対的に収益性の高い製品群の売上が減少いたしました。当連結会計年度より当社グループに加わったRAYTEC LIMITEDの業績が好調に推移し、前年実績を上回りました。

自動ドア関連につきましては、国内の建築需要が徐々に回復し、自動ドアの設置台数の堅調な伸びに伴い、自動ドア用センサの販売が好調に推移いたしました。海外におきましても、北米の大手自動ドアメーカーから自動ドア用センサの安全性と信頼性を高く評価され、新規採用が順調に推移したことにより、売上高34億91百万円（前年度比8.3%増）となりました。

< F A 事業 >

F A 事業は、海外におきましては、欧州での金融不安の影響や中国における液晶関連等の設備投資抑制の影響を受け、需要は低迷いたしました。また、国内におきましても工作機械、自動車関連業界で設備投資需要の持ち直しはあるものの、電子部品、半導体、液晶関連などの設備投資需要は低調に推移いたしました。この結果、売上高44億6百万円（前年度比3.5%減）、営業利益2億70百万円（前年度比40.4%減）となりました。

< 生産受託事業 >

中国における生産受託事業につきましては、不安定な経済環境にあったものの受託製品数量が増加し、売上高は10億円（前年度比55.4%増）、営業利益1億9百万円（前年度比11.4%増）となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末と比較して3億89百万円増加し、69億12百万円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況と主な要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は16億40百万円（前年度は13億75百万円）となりました。これは主に、法人税等の支払（7億43百万円）、仕入債務の減少（1億63百万円）及び売上債権の増加（1億32百万円）による資金の減少があったものの、税金等調整前当期純利益を16億38百万円確保したことにより資金が増加したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は13億71百万円（前年度は5億24百万円）となりました。これは主に、子会社株式の取得による支出（9億62百万円）及び当社における新製品開発、製造のための金型取得及び子会社における製造設備の増設等による有形固定資産の取得に伴う支出（3億96百万円）によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は3億12百万円（前年度は5億40百万円）となりました。これは主に、配当金の支払（4億98百万円）により資金が減少したことによるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)	対前年度比増減率(%)
センシング事業		
防犯関連(百万円)	8,837	17.5
自動ドア関連(百万円)	3,564	6.8
その他(百万円)	459	9.9
計(百万円)	12,862	13.1
F A事業(百万円)	4,016	2.0
生産受託事業(百万円)	992	50.0
その他(百万円)	1,353	6.4
合計(百万円)	19,225	11.5

(注) 上記金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

(2) 商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)	対前年度比増減率(%)
センシング事業		
防犯関連(百万円)	549	21.1
自動ドア関連(百万円)	178	26.9
その他(百万円)	180	34.8
計(百万円)	909	24.7
F A事業(百万円)	-	-
生産受託事業(百万円)	-	-
その他(百万円)	0	40.1
合計(百万円)	909	24.7

(注) 上記金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

当連結会計年度の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)	対前年度比増減率(%)
センシング事業		
防犯関連(百万円)	-	-
自動ドア関連(百万円)	-	-
その他(百万円)	-	-
計(百万円)	-	-
F A事業(百万円)	-	-
生産受託事業(百万円)	717	19.0
その他(百万円)	305	6.9
合計(百万円)	1,023	9.8

(注) 1. 上記金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

2. 当社グループ(当社及び連結子会社)では、生産受託事業及びその他を除き見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

(4) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)	対前年度比増減率(%)
センシング事業		
防犯関連(百万円)	9,915	22.8
自動ドア関連(百万円)	3,491	8.3
その他(百万円)	557	17.4
計(百万円)	13,964	16.6
F A事業(百万円)	4,406	3.5
生産受託事業(百万円)	1,000	55.4
その他(百万円)	1,328	0.7
合計(百万円)	20,699	11.9

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 最近2連結会計年度における主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)		当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
S I C K A G	2,559	13.8	2,452	11.8

3. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

グローバル化の急速な伸展と新興国市場の伸張など、世界経済は大きく変動し、企業の競争環境や社会、市民生活にも様々な変化をもたらしています。

当社グループは、センシングテクノロジーをベースに人々の暮らしや産業社会に「安全・安心・快適」の実現を果たすため、新たな成長機会を追求し、事業全体の効率化を図り、収益体質の強化に取り組んでまいります。

本年度を目標年度とする中期経営計画において「コア事業の持続的成長」、「新興国市場への注力」と「事業領域の拡大」を成長の戦略の骨子として展開しております。

コア事業の持続的成長

各事業セグメントにおいて、新製品の継続的な開発を行い、さらなるコスト競争力の強化と製品ラインアップの増強を行います。同様に、基礎研究を通してセンシングに関わる要素技術や通信技術を確立し、それらモジュールの内製化を進めることによって、製品の差別化や付加価値を高めてまいります。また、グローバルレベルでの業務革新を推進し、安定的かつ高い収益を確保しながら市場競争力の強化を図るために、平成24年1月に稼働した欧州倉庫に続き、同年12月に香港倉庫を開設いたしました。

引き続きサプライチェーンの改革を実施していき、グローバル化が進むビジネスフィールドで、お客様に高い付加価値を提供し続けます。

新興国市場への注力

相対的に高い成長が見込まれる新興国市場では、先進国とは異なる市場環境や各地域特有のニーズを把握する必要があります。当社では、それぞれの市場特性に応じた事業戦略を構築するため、平成24年12月にインドに合弁会社、ブラジルに子会社を設立いたしました。

今後とも、積極的に現地進出を果たし、現地での市場調査や営業活動を強化することにより、拡大する需要を取り込んでまいります。

事業領域の拡大

平成24年9月に、世界的に伸張するIPセキュリティ分野において事業拡大を目指し、デンマークのマイルストーン・システムズ社と技術提携を行いました。同社は、IPビデオ統合ソフト専門メーカーで、オープンプラットフォームIPビデオ統合ソフトの分野で世界No.1のシェアを誇っており、全世界にシステムインテグレーターなど8万社以上のパートナーを有しています。同社が保有する監視カメラ統合ソフトウェア技術と屋外センサのトップメーカーである当社が協業することで、監視の効率化、一元化が可能な屋外警戒ソリューションを提供してまいります。

今後も新たな事業機会を創出していくため、異業種との業務提携やM & Aを積極的に推進してまいります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、当社グループの事業展開上のリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。

なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 為替相場の変動リスクについて

当社グループはグローバルに事業を展開しており、特に海外販売比率が高いため、為替の変動は事業活動に影響を及ぼします。外貨建取引から発生する収益・費用及び資産・負債の円換算額は為替変動により影響を受け、当社グループの経営成績や財務状態に悪影響を与える可能性があります。当社グループは為替変動による損益への影響を限定する目的で、外貨建資産・負債額の一定比率に対して為替ヘッジ策を講じております。

(2) 原材料調達（数量・価格）の変動リスクについて

当社グループの原材料の調達については、国内外において複数の取引先との間で価格の維持及び安定的な仕入確保に努めており、継続的かつ積極的なコストダウン活動を推進する一方で、在庫確保が容易な汎用品の使用比率向上を進めたり、仕入先の分散化・複数化により万一の場合に備えております。しかし、エネルギーや商品相場の急激な変動など世界的な需給バランスの変動により、原材料の調達困難や仕入価格の著しい上昇が起り、当社グループの経営成績や財務状態に悪影響を与える可能性があります。

(3) 最終製品の販売動向に関するリスクについて

当社グループの属する業界では多くの競合する企業があり、常に価格競争にさらされております。このような環境下におきまして、当社グループでは他社に先行したより付加価値の高いオリジナル製品の開発・市場投入により、販売価格の維持に努めております。しかし、競合他社の対応いかんにより、開発競争や市場シェア競争で劣位に陥り、当社グループの経営成績や財務状態に悪影響を与える可能性があります。

(4) 品質に関するリスクについて

当社グループは、「品質第一」の信念のもと、高品質の製品と信頼性の高いサービスを提供することにより、顧客に満足と安全を提供し続けることを目標としております。また、ISO9001の認証を取得し継続的な品質維持にも努めております。一方で、製造物賠償責任（PL）保険にも加入し、万一の賠償金支払等に備えております。しかし、全ての製品・サービスの品質を保証するには限界があり、製造物責任による高額な賠償金支払や大規模なリコール、品質不良が原因の高額な間接的損害額が発生し、当社グループの経営成績や財務状態に悪影響を与える可能性があります。

(5) 環境規制に関するリスクについて

当社グループは、「企業活動と地球環境との調和をめざし、あらゆる分野において積極的かつ継続的に環境保全に取り組むとともに、環境にやさしい製品・サービスを通じて企業としての社会的責任を果たす」ことを目指しております。また、ISO14001の認証を取得し継続的な環境保全にも努めております。世界的に環境に関する意識が高まるなか、各種指令や規則等への対応、更には温暖化ガス（二酸化炭素ガス等）の削減など地球環境保全に関する要請が強まっており、当社グループではこれら社会的要請に対応した製品作りに取り組んでおりますが、厳しい技術的課題を解決するためタイムリーに製品を投入できない場合や、規制対応のために多額の投資を余儀なくされる場合には、当社グループの経営成績や財務状態に悪影響を与える可能性があります。

(6) 技術革新に関するリスクについて

当社グループが取り扱っている各種センサは、技術革新のスピードが加速しつつあり、製品のライフサイクルが短期化し新製品の開発競争が繰り広げられるなかで、顧客のニーズも常に変化しております。当社グループでは、技術優位性の確保のため、市場マーケティングに注力して顧客ニーズの把握に努める一方で、積極的に開発投資を行うため人・モノ・金・情報の投入に注力しております。しかし、市場変化や技術革新への対応が遅れ、競合他社が技術開発において先行した場合には、当社グループの経営成績や財務状態に悪影響を与える可能性があります。

(7) 知的財産権に関するリスクについて

当社グループは新たな技術や独自のノウハウを蓄積し、知的財産権として権利取得するなど法的保護に努めながら研究開発活動を展開しております。しかし、特定地域での法的保護が得られない可能性や、当社グループの知的財産権が不正使用されたり模倣される可能性もあり、知的財産権を完全に保護することには限界があります。一方で、当社グループが第三者の知的財産権を侵害していると司法判断され、当社グループの生産・販売の制約や高額な損害賠償金の支払発生により、当社グループの経営成績や財務状態に悪影響を与える可能性があります。

(8) 情報管理に関するリスクについて

当社グループでは、事業経営に関わる多岐に渡る重要機密情報を有しております。その管理を徹底するため、情報セキュリティ管理規程において情報セキュリティ環境を実現するための基本方針、対策標準、実施手順に関する要件を規定し、従業員に対する教育を徹底しております。しかし、外部からのハッキングなど不測の事態による情報漏洩により、当社グループの信用失墜による売上高の減少または損害賠償による費用の発生等が起こることも考えられ、当社グループの経営成績や財務状態に悪影響を与える可能性があります。

(9) 顧客の信用リスクについて

当社グループは国内外の顧客に製品を販売しておりますが、特定の顧客に大きく依存することはなく、多数の顧客に分散しております。また、当社グループでは、顧客との取引条件に関して与信限度額の設定や超過状況の管理を行い、継続的な信用リスク評価に努めております。しかし、取引先が債務支払不能となり、当社グループの売上債権が不良債権化することも想定され、当社グループの経営成績や財務状態に悪影響を与える可能性があります。

(10) 人材確保・育成に関するリスクについて

当社グループの中長期的な成長は従業員個々人の力量に大きく依存するため、優れた人材の確保と育成は重要な経営課題であります。当社グループでは継続的に優秀な人員採用に努める一方で、教育、育成制度の整備にも力をいれており、経営資源である「人材」のスキル及びノウハウの向上を図っております。しかし、想定した通りの人材を確保、育成できなかつたり、人材確保のために人件費が急上昇した場合、当社グループの経営成績や財務状態に悪影響を与える可能性があります。

(11) 自然災害等の発生リスクについて

当社グループは世界的にも地震発生率の高い日本国内に主要な拠点を有しております。当社グループでは、本社建物の耐震対策や災害時対応手順の整備とともに、情報システムのバックアップ体制についても整備を進め、万一の事態に備えております。また、地震・台風・洪水等の自然災害が発生した場合に製造の操業停止の影響を最小限にするため、生産拠点を国内外に分散させております。しかし、想定を上回る規模の災害や、感染症の流行等が発生した場合、本社機能の停止や製造の操業停止等により、当社グループの経営成績や財務状況に悪影響を与える可能性があります。

(12) 国際的な事業活動に伴うリスクについて

当社グループは、海外市場での積極的な事業拡大を戦略のひとつとしております。しかし、海外におきましては、政情不安（内乱、紛争、テロ行為等）、投資規制や輸出入規制等といった政治的または法的なリスクに直面する可能性があります。それらにより、現地において、事業や投資に制限が加えられたり、製品の競争力低下を招いた場合、当社グループの経営成績や財務状態に悪影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

当社グループは、センシングテクノロジーをベースに人々の暮らしや産業社会に「安全・安心・快適」の実現を果たすため、世の中の様々な課題やニーズに対してその解決方法を提案し、顧客満足度の向上を目指して研究開発を進めております。同時に、基礎研究を通してマイクロウェーブ、レーザー、三次元距離画像といったセンシングに関わる要素技術や通信技術を確立させ、それらモジュールの内製化を進めることにより、製品の差別化や付加価値を高めるなど、新たな事業機会を創出しております。また、複数の部門が共同で新製品開発を進める「コンカレント開発体制」の整備を進め、従前から展開してきました開発情報の共有システムを活用して、調達・設計・生産技術・品質管理、そして国内外の営業など各部門が協力することで、開発スピードが向上し、大幅なコストダウンを実現いたしました。

当社グループにおける研究開発活動は、当社、国内関係会社であるオプテックス・エフエー株式会社、技研トラステム株式会社、株式会社ジーニック、ジックオプテックス株式会社及び日本エフ・エーシステム株式会社、海外関係会社であるFIBER SENSYS INC.、OPTEX (DONGGUAN) CO., LTD.及びRAYTEC LIMITEDにおいて行っています。

当連結会計年度の研究開発費の総額は17億22百万円であり、対売上高比率は8.3%となっています。

<センシング事業>

(1) 防犯関連

近年、テロや凶悪犯罪など人々の生活を脅かす犯罪が増加するなか、遠隔監視による機械警備システムの有効性を高めるため、不審者が建物への侵入後に検知する「事後通報」から、侵入を未然に防ぐ「事前抑止」が重視されています。そのため、高い信頼性を有する屋外用防犯センサや画像監視カメラが組み込まれたシステムが普及しております。

住宅・事業所・店舗・商業施設はもとより、世界的な需要として、港湾・空港・発電所など、社会インフラに関わる重要拠点や公共施設への防犯対策が求められており、当社では、様々な防犯ニーズに応えたセキュリティシステムの研究、開発に取り組んでいます。

当連結会計年度の主な成果は、次のとおりです。

「OPTEX Smart Line シリーズ」

海外市場において、屋外用周警戒用に低消費電力タイプの電池駆動型長距離警戒用防犯センサを開発し、発売いたしました。

「Smart Line シリーズ」は、従来の主力製品であるAXシリーズを刷新し、より美観に配慮したスマートな筐体に当社の最新の技術を投入いたしました。また、様々な設置方法に対応できる豊富なオプションを取り揃えております。

電池駆動の技術によって、配線工事に多額なコストを要する広範な重要施設や配線にノイズの影響を及ぼす雷の多い地域での設置が可能となり、昨今、世界的に重要性を増す社会インフラの保安に貢献することが期待されております。

「REDBEAMシリーズ」

海外市場において、屋外用周警戒IP対応の防犯用センサ「REDBEAMシリーズ」3機種を開発し、発売いたしました。

昨今のITネットワーク技術発展に伴い、従来のアナログ監視カメラからIPネットワーク監視カメラへ移行が急速に進み、IPネットワーク技術を活かして、アクセスコントロールや外周警戒センサシステムなどのシステム統合ソリューションが特にハイエンド（重要施設）セキュリティシステムで求められる傾向が強くなっております。当連結会計年度において、当社は監視カメラ統合ソフトのトップメーカーであるマイルストーン・システムズ社との協業を発表し、監視の効率化、一元化が可能な屋外警戒ソリューション強化を図ってまいりました。

「REDBEAMシリーズ」は、本ソリューション強化の一環として開発いたしました。従来の屋外用周警戒センサとIP対応のため新開発したIPエンコーダーを組合せ、屋外用周警戒センサとしての信頼性と監視システムとの親和性を併せ持つ製品です。

「Raytec Vario シリーズ」

屋外防犯のトータルソリューション拡充のため、新たに監視カメラ用のLED補助投光器9機種を開発し、発売いたしました。

監視カメラは、近年の技術革新により高解像度の製品が発売される一方、暗所での撮影は一つの画素で得られる光量が減少するため、夜間での映像が不鮮明になる傾向があります。カメラが持つ本来のポテンシャルを発揮し、より鮮明な映像を取得するためにも投光器は不可欠といえます。

「Raytec Varioシリーズ」は、鮮明な撮影が可能となるように、遠距離では露出不足にならない光量で、近距離では露出過多による白飛びを起こさない独自の光学技術を採用しています。

「LED照明 シリーズ」

省エネ効果の高いLED照明は、点灯・消灯での寿命低下の影響がないため、必要な時だけ点灯させるセンサライト（照明調光）と非常に相性の良い光源です。

当社は、「必要なときに、必要なあかり」をコンセプトに、住宅向け、コインパーキング向け及び事業所向けのセンサ連動型照明・調光システムを相次いで開発・発売し、屋外用の照明調光分野を強化いたしました。

「住宅向け屋外用LEDセンサライト LA-11LED、LA-22LED」は、住まいの外観になじむスリムでコンパクトなボディながら、後付けLEDセンサライトとして業界最高クラスの明るさを実現いたしました。

「コインパーキング専用節電照明 CLED シリーズ」は、明るさや調光パターンを自由に設定でき、夜間、利用者がいない時には必要最低限の明るさで点灯、車や人を検知すると100%に増光といった調光点灯が可能なシステム照明です。

「事業所向け屋外用LEDセンサライト EL-101L、EL-202L」は、人感センサ・照度センサを搭載したオールインワンタイプで、省エネ効果はもちろんのこと、真っ暗にならない調光動作は、防犯・安全面での相乗効果も期待できます。

(2) 自動ドア関連

自動ドア分野におきましては、公共施設やオフィス、工場などで人が安全・安心・快適に出入りできる自動ドア・シャッター用センサ、特定の人だけの入室を許可する入室管理など、用途や設置環境に対応した製品を開発、販売しております。創業以来培ってきました独自のセンシング技術で常に業界最高水準の安全性を維持しながら、あらゆる環境に対応するための研究開発を行っております。

これにより、現在では国内の自動ドア・シャッターセンサ分野におきましては、約6割のシェアを確保し、海外におきましても世界の安全に対する意識の高まりを受け、シェアは堅調に増加しております。

当連結会計年度の主な成果は、次のとおりです。

コンビネーションセンサ「OAM-DUAL、X-ZONEシリーズ」

欧州及び北米市場向けに近赤外技術とマイクロウェーブ技術を使ったコンビネーションセンサ

「OAM-DUAL/X-ZONEシリーズ」を開発し、発売いたしました。

各国安全規格への準拠はもとより、ドアの軌道上のエリア検出が可能な「ドアウェイクロス機能」を搭載、これにより、レール上の人や物を確実に検出できるようになりました。安全規格要求事項の一步先に行く安全性を実現した野心的な新製品です。

さらに、当社製品としては初めて、ドイツ消防法に基づくエスケープルート規格にも準拠しており、特に欧州市場での拡販を目指します。

自動ドア用ワイヤレスタッチスイッチ「OW-503セレクトシリーズ」

昨年発売しご好評を得ておりました、自動ドア起動用ワイヤレスタッチスイッチ「OW-503シリーズ」に、自動ドア業界で初めてデザイン性を考慮した「OW-503セレクトシリーズ」を発売いたしました。

これまでのタッチスイッチのデザインは、全て目立たないというコンセプトでデザインされていましたが、当社ではタッチスイッチを入口のひとつのエクステリアと捉え、様々なシュチュエーションに合うデザインを用意させて頂きました。カバーデザインとしてポップ、シック、シンプル、ジェースタイルの4種類を用意することで、今までデザイン的に設置を敬遠されてきた顧客からもご好評いただいております。

今後、セレクトシリーズを皮切りにデザイン性を重視した製品を拡充し、新たな需要を開拓していきたいと考えております。

(3) その他

その他のセンシング分野におきましては、触らず、素早く、安全に物体の表面温度を計測する非接触温度計や、液体の色や濁りを素早く正確に測定する環境計測用センサなど、安全・品質・衛生管理の特殊な計測ニーズに対応した製品の開発を行っております。

当連結会計年度の主な成果は、次のとおりです。

温度計測

最近の熱画像計測市場は性能向上と低価格化が進み、製造を始めとして、多様な用途で使用されるようになってまいりました。この状況を踏まえ、「次世代ポータブル型赤外線サーモグラフィ iシリーズ」を発売いたしました。

温度計をご利用いただいておりますお客様から様々なご要望を頂戴しており、これらを解決できる製品をご提供することにより、最も信頼されるメーカーとなるべく研究開発活動を行っております。

環境計測

現在当社では、国内・海外の各種民間工場や公共の排水・上水処理施設向けに、濁度測定センサを中心に8機種の商品展開を図っており、測定精度や耐久性など高コストパフォーマンス製品としてご評価いただいております。

しかしながら、水処理施設において当社が提供できる濁度測定センサは、一部のプロセスのみでの使用であり、それ以外のプロセスに対し当社から一括した水質測定ソリューションを提供しきれておりませんでした。

このような背景から、水処理プロセスでのトータルニーズに対応するために、水処理施設向け水質測定センサのpH測定、残留塩素測定など6カテゴリ18機種のラインアップを増強し、国内外向けに順次発売いたしました。

さらに、高濃度まで測定できる「SSチェッカー TS-Mx」も発売いたしました。当社従来機種では水処理過程でも最終過程に近い放流水の濁り測定が対象用途でしたが、本器では高濃度SSの測定が可能のため、原水処理過程から反応槽（ばっき槽）での水質監視など幅広い用途に対応します。

当社にて各種水質測定センサを順次ラインアップすることにより、水処理市場のお客様に、濁度センサを核に一気通貫した水質測定ソリューションを提供することが可能となりました。

< F A 事業 >

当社グループは、あらゆる製造分野の工場における製造ラインの自動化・省力化に不可欠な光電センサを主とするF Aセンサ（産業用センサ）の研究、開発に取り組んでおります。可視光や赤外光を用いた光電センサのみならず、距離を計測する変位センサ、カメラを用いた画像センサ、LED照明機器など、センサ及びその周辺機器を幅広く開発しております。

センシングスポット照明「OPS-Sシリーズ」

センシングバー照明「OPB-Sシリーズ」、同リング照明「OPR-Sシリーズ」に続き、センシングスポット照明「OPS-Sシリーズ」を開発いたしました。「OPS-Sシリーズ」では当社特許（5139956）であるセンシング技術を搭載しつつ、新たにFalux-itと呼ぶLEDの順方向電圧を仮想的に任意の電圧に変換する回路を搭載し、従来必要であったスポット照明専用電源または電圧を降下させる抵抗ボックスを不要とし、汎用のLED照明用電源を使用することを可能にしております。

また独自の光学設計により、均一度の高いスポット照射を実現したことで、明るさのみならずカメラの撮影範囲をより有効に使用することができます。

マルチカメラ画像センサ「MVS-Rシリーズ」

当社マルチカメラ画像センサ「MVSシリーズ」のCCDを高感度化することにより、従来製品よりもより高速撮影ができるようになりました。これにより、より高速に物体が移動するラインにも対応することができ、2011年度のイーサネット対応化と合わせて、画像センサとしてのアプリケーションをさらに広げることを実現しております。

AC電源対応 汎用光電スイッチ「Vシリーズ」

当社ロングラン製品であるAC電源にも対応した汎用光電スイッチのVシリーズを一新し発売いたしました。最新のOpto ASICを搭載し、従来比30%のコストダウンを図りながら、従来品との上位互換性をも両立いたしました。

新たに、光波測距技術を使用したロングレンジBGSセンサ、TOFシリーズもラインナップに加わりました。この製品は投光したレーザー光が対象物に反射して受光するまでの時間を測定することで、長距離（3mモデルと20mモデル）、高速応答（0.5ms）を得つつ、低価格をも実現いたしました。

世界最小変位センサ「FASTUS CD22シリーズ」

数値ディスプレイ搭載の変位計としては世界最小サイズのCD22シリーズを発売いたしました。

スマートフォンのように小型で精密な製品を生産する工程において、検査・測定するセンサ類も従来よりも小型、高精度なものが求められております。そのニーズを満たすために、高精度な専用ハイブリッド受光レンズを搭載し、小型でありながら上位機種並みの高精度を実現しております。

< その他 >

当社グループは、独自のセンシング技術に新たな要素技術を融合させた、客数情報システムの開発、販売を行っております。全国の商業施設をはじめ、公共施設やイベント会場などに多数採用され、施設の入・退場者数や滞留者数などを正確にカウントするシステムです。各施設の営業戦略やマーケティングの裏付けとなる情報収集に役立っております。

当連結会計年度の主な成果としましては、入店者の検知、画像処理、計数処理を行うカメラ・プロセッサー一体型の客数計測センサ「PALOSSIE AIO（パロッシェアイオ）」を開発し、海外に向けて発売いたしました。店舗の売上を拡大させるために、効率的な人材配置や効果的な陳列、インパクトある広告など、それぞれの側面で効果的な施策を打たなければなりません。その実現のためには、もっとも重要な基礎データである入店者数を正確に把握することが必須です。昨今、アジア諸国を中心に大型ショッピングモールなどの商業施設が順次開業しており、各店舗での効率運営や店舗集客情報の管理が進んでおります。また、設置工事や動作設定の簡便化と導入しやすい価格設定が海外市場で求められております。カメラ・プロセッサーを一体型にし、クラウドシステムにも対応可能となった最新の客数計測センサで、一気に海外へ客数システムの普及を図り、施設運営管理、人員配置、マーケティング、安全面の対策にご活用いただける情報を提供してまいります。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び会計数値の見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。連結財務諸表の作成に際しては、連結会計年度末における資産・負債の報告数値及び偶発債務の開示並びに報告期間における収益・費用の報告数値に影響を与える見積りや仮定を使用するため、過去の実績や法制度の変更など様々な要因に基づき、見積り及び判断を行っております。

当社グループの重要な会計方針については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおりですが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

売上高は206億99百万円となり、前連結会計年度に比べ21億97百万円増加しました。これは主に欧州市場の混乱や歴史的な円高の影響を受けつつも、新製品の早期立上げ、既存事業の拡販並びに市場での差別化が奏功し、センシング事業売上高が139億64百万円と19億89百万円増加したことによるものであります。

営業利益は13億98百万円となり、前連結会計年度に比べ2億79百万円減少しました。これは主に積極的な研究開発費の投資及び新たに連結子会社化した子会社費用などにより販売費及び一般管理費が9億9百万円増加したことによるものであります。

経常利益は16億80百万円となり、前連結会計年度に比べ1億49百万円減少しました。これは主に為替差益等による営業外収支の改善があったものの、営業利益の減少額を補えなかったことによるものであります。

当期純利益は、評価性引当金が増加したことによる法人税等負担率の上昇などにより、前連結会計年度に比べ2億8百万円減少し8億25百万円となりました。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 4 事業等のリスク」に記載のとおりです。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は69億12百万円となり、前連結会計年度末と比べ3億89百万円増加しました。これは主に営業活動によるキャッシュ・フローの収入が前連結会計年度に比べ2億64百万円増加し、かつ財務活動によるキャッシュ・フローの支出が2億27百万円減少したことによるものであります。

なお、詳細につきましては「第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」に記載のとおりです。

財政状態

1) 資産の状況

当連結会計年度末における資産合計は236億64百万円となり、前連結会計年度末と比べ17億75百万円増加しました。

流動資産は159億33百万円となり、8億66百万円増加しました。これは主に受取手形及び売掛金の増加5億86百万円によるものであります。

固定資産は77億30百万円となり、9億8百万円増加しました。これは主に子会社株式取得に伴うのれんの増加等により無形固定資産が7億64百万円増加したことによるものであります。

2) 負債の状況

当連結会計年度末における負債合計は41億31百万円となり、前連結会計年度末と比べ5億47百万円増加しました。これは主に支払手形及び買掛金の増加等により流動負債が4億61百万円増加したことによるものであります。

3) 純資産の状況

当連結会計年度末における純資産合計は195億32百万円となり、前連結会計年度末と比べ12億28百万円増加しました。これは主に利益剰余金が3億28百万円増加したことに加え、為替換算調整勘定等のその他の包括利益累計額が8億59百万円増加したことによるものであります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額は、5億14百万円（無形固定資産への投資を含む）となりました。その主なものは、センシング事業における新製品開発、製造のための金型等の取得2億21百万円及び生産受託事業における製造設備の増設96百万円であります。

なお、生産能力に重大な影響を与えるような固定資産の売却、撤去等はありません。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成24年12月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)				合計	従業員数 (名)
			建物及び構 築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	工具、器具 及び備品		
本社 (滋賀県大津市)	センシング事業	販売・開発・技術 ・企画・管理業務 施設	969	33	904 (22,245)	120	2,028	247 (20)
旧本社 (滋賀県大津市)	-	賃貸施設	94	-	210 (734)	0	305	-
東京営業所 (東京都新宿区)	センシング事業	販売業務施設	0	-	-	2	2	20 (-)

(2) 国内子会社

平成24年12月31日現在

会社名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)				合計	従業員数 (名)
				建物及び構 築物	機械装置及 び運搬具	土地 (面積㎡)	工具、器具 及び備品		
オプテックス・エ フエー(株)	京都市 下京区	F A 事業	開発・販売業 務施設	0	17	-	41	58	92 (3)
日本エフ・エーシ ステム(株)	東京都 品川区	F A 事業	開発・販売業 務施設	-	-	-	-	-	9 (1)
技研トラステム(株)	京都市 伏見区	その他	開発・販売業 務施設	44	-	88 (848)	5	137	46 (1)
(株)ジーニック	滋賀県 大津市	その他	開発・販売業 務施設	1	0	-	0	2	30 (1)
オーバルオプテッ クス(株)	滋賀県 大津市	その他	スポーツクラ ブ管理業務施 設	8	-	-	1	9	5 (28)

(3) 在外子会社

平成24年12月31日現在

会社名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数(名)
				建物及び構築物	機械装置及び運搬具	土地(面積㎡)	工具、器具及び備品	合計	
OPTEX INCORPORATED	米国カリフォルニア州	センシング事業	販売業務施設	0	2	-	5	8	22 (2)
OPTEX DO BRASIL LTDA.	ブラジルサンパウロ州	センシング事業	販売業務施設	-	-	-	-	-	-
OPTEX TECHNOLOGIES INC.	米国カリフォルニア州	センシング事業	販売業務施設	0	0	-	3	3	15 (1)
FIBER SENSYS INC.	米国オレゴン州	センシング事業	開発・販売業務施設	-	7	-	14	22	26 (-)
RAYTEC SYSTEMS INC.	カナダオンタリオ州	センシング事業	販売業務施設	-	-	-	2	2	4 (2)
OPTEX (EUROPE), LTD.	イギリスパークシャー州	センシング事業	販売業務施設	-	34	-	5	40	25 (-)
FARSIGHT SECURITY SERVICES, LTD.	イギリスケンブリッジシャー州	センシング事業	販売業務施設	-	11	-	3	14	27 (3)
RAYTEC LIMITED	イギリスノーサンバーランド州	センシング事業	製造・販売・開発業務施設	17	30	-	10	58	50 (4)
OPTEX SECURITY SAS	フランスアルナス	センシング事業	販売業務施設	-	16	-	20	37	9 (3)
OPTEX TECHNOLOGIES B.V.	オランダハーグ市	センシング事業	販売業務施設	-	-	-	3	3	4 (3)
OPTEX SECURITY Sp.z o.o.	ポーランドワルシャワ市	センシング事業	販売業務施設	-	0	-	-	0	5 (-)
OPTEX SECURITY, LLC	ロシアモスクワ市	センシング事業	販売業務施設	-	-	-	-	-	-
OPTEX KOREA CO., LTD.	韓国ソウル市	センシング事業	販売業務施設	0	1	-	0	2	5 (-)
OPTEX PINNACLE INDIA PRIVATE LIMITED	インド共和国ハリヤナ州	センシング事業	販売業務施設	-	-	-	-	-	-
OPTEX (H.K.), LTD.	中国香港特別行政区	生産受託事業	部材調達業務施設	-	-	-	-	-	1 (-)
OPTEX (DONGGUAN) CO., LTD.	中国広東省東莞市	生産受託事業	製造・販売・開発業務施設	-	167	-	35	203	536 (-)

- (注) 1. 帳簿価額には建設仮勘定を含んでおりません。なお、金額には消費税等は含まれておりません。
 2. 提出会社の本社内にはオーパルオプテックス㈱へ賃貸している施設を含んでおります。
 3. 現在休止中の設備はありません。
 4. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均人員を()内に外数で記載しております。
 5. リース契約による主な賃借設備は、次のとおりであります。

提出会社

平成24年12月31日現在

事業所名(所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間リース料(百万円)	リース契約残高(百万円)
本社(滋賀県大津市)	センシング事業	コンピュータ(所有権移転外ファイナンス・リース)	1	-

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

設備の新設、拡充計画の主なものは次のとおりであります。

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
オプテックス㈱	滋賀県 大津市	センシング 事業	新製品用 金型等	275	-	自己資本	平成25年1月	平成25年12月	影響はあ りません
計	-	-	-	275	-	-	-	-	-

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年3月25日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	16,984,596	16,984,596	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	16,984,596	16,984,596	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成20年1月1日～ 平成20年12月31日 (注)	12,200	16,984,596	5	2,798	5	3,649

(注) 平成13年改正旧商法第280条ノ20及び第280条ノ21の規定に基づき発行された新株予約権(旧商法第280条ノ19の規定に基づき発行された新株引受権を含む。)の権利行使による増加であります。

(6) 【所有者別状況】

平成24年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状 況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	-	29	23	58	65	1	4,761	4,937	-
所有株式数 (単元)	-	37,278	3,677	6,464	19,812	120	101,182	168,533	131,296
所有株式数 の割合 (%)	-	22.12	2.18	3.84	11.76	0.07	60.03	100.00	-

(注) 自己株式424,652株は、「個人その他」に4,246単元及び「単元未満株式の状況」に52株含めて記載しております。

(7)【大株主の状況】

平成24年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
小林 徹	滋賀県大津市	1,722	10.14
有本 達也	滋賀県大津市	1,419	8.35
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,292	7.61
栗田 克俊	滋賀県大津市	709	4.17
ザ チェース マンハッタンバン ク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント (常任代理人 株式会社みずほ コーポレート銀行決済営業部)	WOOLGATE HOUSE, COLEMAN STREET LONDON ES2P 2HD, ENGLAND (東京都中央区月島4丁目16番13号)	549	3.23
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	539	3.17
ビーエヌワイエムエル ノン リーティー アカウント (常任代理人 株式会社三菱東京 UFJ銀行)	VERTIGO BUILDING-POLARIS 2-4 RUE EUGENE RUPPERT L-2453 LUXEMBOURG GRAND DUCHY OF LUXEMBOURG (東京都千代田区丸の内2丁目7番1 号)	305	1.80
オプテックス従業員持株会	滋賀県大津市5丁目8番12号	299	1.76
竹田 和平	名古屋市天白区	280	1.64
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	278	1.63
計	-	7,396	43.55

(注) 1. 当社は、自己株式424千株(発行済株式総数に対する所有株式の割合2.50%)を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

2. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式は、信託業務に係る株式であります。
3. スパークス・アセット・マネジメント株式会社から平成24年5月17日付で大量保有報告書に関する変更報告書の提出があり、平成24年5月15日現在で以下の株式を保有している旨の報告を受けましたが、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、当該変更報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の 数(株)	株券等保有 割合(%)
スパークス・アセット・マネ ジメント株式会社	東京都品川区東品川二丁目2番4号 天王洲ファーストタワー	904,500	5.33

4. インベスコ投信投資顧問株式会社及びその共同保有者であるインベスコ・アセット・マネジメント・リミテッドから平成24年12月20日付で大量保有報告書に関する変更報告書の提出があり、平成24年12月14日現在で以下の株式を保有している旨の報告を受けましたが、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができないため、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、当該変更報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の 数(株)	株券等保有 割合(%)
インベスコ投信投資顧問株式 会社	東京都港区六本木六丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー14階	954,500	5.62
インベスコ・アセット・マネ ジメント・リミテッド	英国ロンドン市フィンズベリースクウェ ア30番地 EC2A1AG	138,800	0.82
計	-	1,093,300	6.44

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 424,600 (相互保有株式) 普通株式 28,600	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,400,100	164,001	同上
単元未満株式	普通株式 131,296	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	16,984,596	-	-
総株主の議決権	-	164,001	-

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) オプテックス株式会社	滋賀県大津市におの 浜四丁目7番5号	424,600	-	424,600	2.50
(相互保有株式) オフロム株式会社	福井県福井市三留町 72-10	28,600	-	28,600	0.17
計	-	453,200	-	453,200	2.67

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	210	216
当期間における取得自己株式	150	164

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	424,652	-	424,802	-

(注) 当期間における保有自己株式には、平成25年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

3【配当政策】

当社グループは、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題の一つであると位置付けております。

配当につきましては、収益状況に裏付けられた成果の配分を行うことを基本に、将来の事業展開に備えた財務基盤の強化を考慮し、安定的かつ継続的な利益配当とのバランスを総合的に勘案して決定しております。

配当の支払時期及び回数につきましては、中間配当及び期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、これらの配当の決定機関は、期末配当につきましては株主総会、中間配当につきましては取締役会でそれぞれ決定いたします。

当事業年度の期末配当につきましては、上記の方針に基づき1株当たり15円の配当を実施することを決定いたしました。これにより、平成24年9月に実施いたしました中間配当1株当たり15円を含め、年間では1株当たり30円となります。

内部留保資金は将来の成長、発展に必要な新製品の研究開発、設備投資並びに新規事業投資など、中長期的な事業拡大の財源として充当し、更なる業績の向上と経営体質の強化を図ってまいりたいと考えております。

当社は、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議により、毎年6月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当事業年度の剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年8月3日 取締役会決議	248	15
平成25年3月23日 定時株主総会決議	248	15

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第30期	第31期	第32期	第33期	第34期
決算年月	平成20年12月	平成21年12月	平成22年12月	平成23年12月	平成24年12月
最高(円)	1,796	1,201	1,249	1,255	1,155
最低(円)	742	742	832	875	835

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	1,005	968	895	898	990	1,075
最低(円)	856	849	849	835	850	953

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長 兼代表取締役 役社長		小林 徹	昭和23年1月10日生	昭和47年6月 竹中エンジニアリング工業株式会社 入社 昭和54年5月 当社設立 当社代表取締役社長に就任 平成14年1月 当社代表取締役社長兼CEO 平成24年1月 当社取締役会長兼代表取締役社長 (現任)	(注)3	1,722
常務取締役		神崎 清賢	昭和25年6月18日生	昭和50年4月 大成物産株式会社入社 昭和57年4月 当社入社 平成11年1月 当社産業機器営業部長 平成11年3月 当社取締役産業機器営業部長 平成11年7月 当社取締役営業部門統括 平成14年1月 当社取締役社長室担当執行役員 平成15年1月 当社取締役人事本部長 平成18年1月 当社取締役スタッフ部門統轄兼人事 本部長兼執行役員イノベーション事 業本部長 平成20年1月 当社取締役 平成24年1月 当社常務取締役(現任)	(注)3	48
取締役	執行役員 管理本部長	東 晃	昭和36年6月10日生	昭和59年4月 当社入社 平成15年1月 当社社長室長 平成16年1月 当社執行役員経営企画本部長 平成17年1月 当社執行役員管理本部長 平成18年3月 オプテックス・エフエー株式会社社 外監査役(現任) 平成24年3月 当社取締役兼執行役員管理本部長 (現任)	(注)3	7
取締役	執行役員 SEC事業 本部長・E SI事業本 部長	上村 透	昭和35年4月9日生	平成18年11月 当社入社 平成19年1月 当社執行役員技術開発本部長 平成23年1月 当社執行役員SEC事業本部長 平成24年3月 当社取締役兼執行役員SEC事業本 部長 平成25年1月 当社取締役兼執行役員SEC事業本 部長・ESI事業本部長(現任)	(注)3	1
取締役		桑野 幸徳	昭和16年2月14日生	昭和38年4月 三洋電機株式会社入社 平成5年2月 同社取締役 平成5年12月 同社取締役研究開発本部長 平成6年3月 当社社外監査役 平成8年6月 三洋電機株式会社常務取締役 平成11年6月 同社取締役・専務執行役員 平成12年10月 当社社外監査役退任 平成12年11月 三洋電機株式会社代表取締役社長 兼COO 平成16年4月 同社代表取締役社長CEO 兼COO 平成17年6月 同社取締役相談役 平成17年11月 同社相談役 平成18年3月 当社取締役(現任) 平成18年6月 三洋電機株式会社常任顧問 平成19年4月 同社常任顧問退任 平成20年6月 大和ハウス工業株式会社社外監査役 (現任) ・太陽光発電技術研究組合理事長	(注)3	11

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		松村 保男	昭和23年12月23日生	昭和46年4月 新日本電気株式会社入社 平成11年2月 当社へ出向 当社顧問兼製造部製造品質課長 平成15年1月 当社執行役員兼システム企画本部長 平成15年11月 当社入社 当社内部監査室長 平成16年3月 当社常勤監査役(現任)	(注)4	4
監査役		八幡 知行	昭和18年2月2日生	昭和47年4月 監査法人中央会計事務所大阪事務所 入所 昭和54年12月 八幡公認会計士事務所所長(現任) 平成9年3月 当社監査役(現任) 平成14年1月 オプテックス・エフエー株式会社監 査役(現任)	(注)4	16
監査役		尾迫 勉	昭和23年1月27日生	昭和42年2月 立石電機株式会社(現オムロン株式 会社)入社 平成11年6月 同社執行役員常務品質・環境本部長 平成14年6月 同社常勤監査役 平成21年6月 同社常勤監査役退任 平成24年3月 当社監査役(現任)	(注)5	1
計					-	1,813

- (注) 1. 取締役桑野幸徳氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役八幡知行氏及び監査役尾迫勉氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 平成24年3月24日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
4. 平成23年3月26日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
5. 平成24年3月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
6. 当社では、平成14年1月7日より組織のより機動的な運営を図るために、執行役員制度を導入しております。執行役員は6名で、次のとおり構成されております。
- 上村 透 (SEC事業本部長・ESI事業本部長)
- 柴田 昌彦 (エントランス事業本部長)
- 角 光史 (グローバル事業企画室長)
- 今井 貴之 (ビジネス開発本部長)
- 福井 真一 (生産統括本部長)
- 東 晃 (管理本部長)

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(1) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、株主、投資家をはじめ、顧客、社会からの信頼を獲得しつつ、継続的に企業価値を向上させることが最大の使命であると認識しております。その実践のためにコーポレート・ガバナンスの充実を経営の最重要課題の一つと位置付けて、経営の透明性向上と、公正かつ迅速な意思決定を伴う経営システムの維持及び経営監視機能の強化を目指しております。

(2) 企業統治の体制

企業統治の体制の概要

当社は、法令で定められた事項や経営の基本方針等、重要事項に関する意思決定機関及び監督機関として取締役会、執行機関として経営会議（執行役員会）及び監査機関として監査役会を基本機構としております。

a. 取締役会

取締役会は、取締役5名で構成され、原則毎月1回以上開催し、コーポレート・ガバナンスを含めた経営に関する重要事項の決定並びに業務執行状況の監視・監督を行っております。また、社外取締役1名を設置することにより、第三者的立場からの監督や助言を受けつつ経営判断の迅速性と透明性を確保しております。なお、取締役会には監査役3名が出席し、取締役会の業務執行について、適法性・妥当性を監査しております。

b. 監査役会

当社は、監査役制度を採用し、監査役会は監査役3名で構成されており、うち2名を社外監査役とした監査体制としております。各監査役は、監査役会で決定された監査方針、監査計画に基づき、監査に関する重要な事項等の報告・協議・決議を行っております。また、取締役会、経営会議（執行役員会）等の重要会議に出席するほか、重要な決議書類の閲覧、業務及び財産の状況調査により、厳正な監査を実施しております。更に、グループ全体の監査状況を把握し課題を検討するために、原則年2回、海外を含めた全ての子会社の監査役もしくは監査担当役員によるグループ監査役会を開催しております。

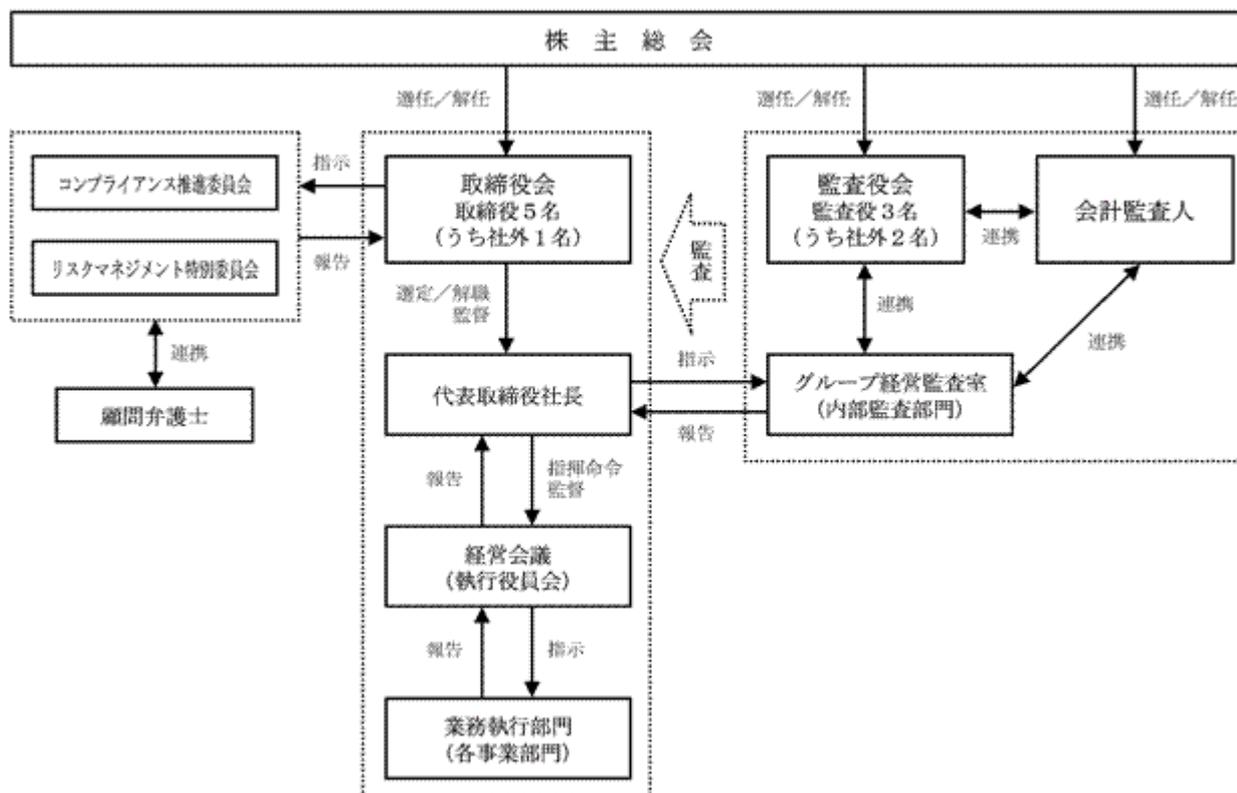
c. 経営会議（執行役員会）

経営会議（執行役員会）は、取締役、監査役及び執行役員等で構成され、原則毎月1回開催し、経営及び業務執行に関する重要事項の審議を行うほか、業務執行状況の報告を行っております。

d. コンプライアンス推進委員会

当社は、代表取締役社長を委員長とする「コンプライアンス推進委員会」を取締役会の直轄組織として設置し、原則2ヵ月に1回、遵法精神の醸成及び企業倫理に基づく企業活動の徹底を図るための重要方針の審議・推進を行っております。また、「オプテックスグループ行動規範」を制定し、当社グループ全役職員に周知徹底することにより、グループをあげて遵法経営の実践を目指しております。

業務執行・経営の監視のしくみ及び内部統制システムの模式図は以下のとおりです。



企業統治の体制を採用する理由

当社グループの企業統治は、現行の監査役制度を通じて、効果的かつ効率的に実施されております。当社グループの事業規模及び組織構造を踏まえた場合、現行の体制は、監査の独立性の確保と企業統治の効率性を達成する上で、最適であると考え現行の企業統治の体制を採用しております。

内部統制システムの整備の状況

当社は、取締役会において、会社法及び会社法施行規則の規定に基づき、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制について、以下のとおり決議しております。

- a. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - ・取締役会は、法令及び定款等の遵守のための体制を含む内部統制システムに関する基本方針を決定し、その実施状況を監督するとともに、適宜、基本方針の見直しを行う。
 - ・監査役は、内部統制システムの整備と実施状況を含め、業務執行状況の調査を行い、独立した立場から取締役の職務執行の監査を行う。
 - ・代表取締役社長を委員長とするコンプライアンスに関する委員会を設置し、遵法精神に基づく企業行動並びに社員行動の徹底を図るための重要事項を審議し、推進する。また、「行動規範」を制定し、周知徹底することにより当社グループ全従業員のコンプライアンスに対する意識の維持向上に努める。
 - ・内部監査部門として代表取締役社長直轄のグループ経営監査室（5名）を設置し、内部監査規程及び年次の内部監査計画に基づき、各部門について内部統制システムの有効性を含めた内部監査を実施し、監査結果は、定期的に代表取締役社長に報告するとともに、監査役会に対しても内部監査の状況を報告する。
 - ・社会の秩序や企業の健全な活動に脅威を与える反社会的勢力に対しては、関係機関との連携を含め組織全体で毅然とした態度で臨むものとし、反社会的勢力とは一切の関係を遮断する。
- b. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - ・株主総会議事録、取締役会議事録等の法定文書のほか重要な職務執行に係る情報が記載された文書（電磁的記録を含む、以下同じ。）を関連資料とともに、文書管理規程その他の社内規定の定めるところに従い、適切に保存し、管理する。取締役及び監査役は、これらの文書を常時閲覧または謄写できるものとする。
- c. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - ・当社の事業運営に重大な影響を及ぼす可能性のあるリスクを把握し、その評価を行い、これを事業運営に活かす仕組みを整備する。また、当該リスク管理の実効性を確保するために委員会を設置しその体制を整備する。
 - ・事業運営に重大な影響を及ぼす事態が発生した場合の対応やその予防について必要な措置を講じる。
- d. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - ・取締役の職務執行を効率的に行うために、取締役会は月1回の定時開催に加え、必要に応じて適宜臨時に開催するものとし、迅速かつ適正な決定を行う。また、その決定に基づく職務執行に当たっては、取締役と執行役員が役割分担等を行い、効率的な業務執行を行うものとする。
 - ・意思決定の迅速化のため、業務分掌規程及び職務権限規程等社内規定を整備し、権限、責任を明確にするとともに、重要事項については、経営会議での審議を踏まえて取締役会の意思決定に資するものとする。
- e. 当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
 - ・当社グループ企業全てに適用する行動指針として「行動規範」を定め、グループ企業全体において遵法経営を実践する。
 - ・グループ企業を統轄する部署を定め、グループ企業各社の業務を所管する事業部門と連携し、子会社統治規程など関連規定に基づき、グループ企業各社の経営管理を行うものとし、必要に応じてモニタリングを行うものとする。
- f. 監査役がその職務の補助をすべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項
 - ・監査役がその職務を補助する使用人を置くことを求めた場合、取締役会は監査役と協議の上、監査役を補助すべき使用人を置くものとする。なお、使用人の任命、異動、評価、指揮命令権限等は、監査役会の事前の同意を得るものとし、当該使用人の取締役からの独立性を確保するものとする。
- g. 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
 - ・取締役及び使用人は、当社及び当社グループの業務または業績に影響を与える重要な事項につき、その内容、業務執行の状況及び結果について遅滞なく監査役会に報告する。また、これに係わらず、監査役はいつでも必要に応じて、取締役及び使用人に対して報告を求めることができるものとする。
- h. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
 - ・監査役及び監査役会は、代表取締役社長と定期的に会合をもち、経営方針、会社の対処すべき課題、会社を取り巻くリスクの他、監査役監査の環境整備の状況、監査上の重要問題等について意見を交換する。
 - ・当社グループ企業全ての監査役もしくは監査担当役員は、グループ企業全体の監査状況を把握し課題を検討するため、定期的にグループ監査役会を開催し、意見交換を行う。
 - ・内部監査部門は、監査役との情報交換を含め連携を密にする。

i. 財務報告の信頼性を確保するための体制

- ・当社グループの財務報告の信頼性を確保するため、金融商品取引法に基づく、有効かつ適切な内部統制システムを構築する。また、その整備・運用状況について継続的に評価し、必要な是正措置を行い、実効性のある体制の構築を図る。

リスク管理体制の整備状況

当社は、事業リスクマネジメントを推進及び統括するための組織として「リスクマネジメント特別委員会」を設置しております。

「リスクマネジメント特別委員会」では、事業運営に関するリスクを洗い出し評価を行い、重要度の高いリスクについては関係部門に対策を指示するなど、リスクマネジメントを継続的かつ安定的に運用するための仕組みを整備しております。また、従業員からの相談等に対応するため「相談窓口担当者」を設置し、職制ラインから切り離して相談ができる体制を構築するとともに、直接、顧問弁護士に対して匿名により相談・告発が可能なくみを構築いたしております。更に、「個人情報保護方針」を定め、「個人情報取扱規程」を制定し、個人情報の保護や管理の改善に取り組んでおります。

(3) 内部監査及び監査役監査の状況

当社は、内部監査部門として代表取締役社長直轄のグループ経営監査室（5名）を設置しており、各部門及び子会社の業務執行について、内部監査規程及び年次の内部監査計画に基づき、必要な内部監査を実施しております。監査結果につきましては、原則毎月1回代表取締役社長に報告するとともに、監査役会（監査役）に対しても、定期的に内部監査の状況を報告しております。また、監査法人と主に財務報告の適正性に関する内部統制の状況について密に連絡を取り、相互に情報交換を行っております。

監査役は、会計監査人と定期的に監査報告会を開催し、会計監査人より監査結果の報告を受けるとともに、重要な会計に関する検討課題については随時意見交換し、検討を行っております。

なお、社外監査役八幡知行氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

(4) 会計監査の状況

当社は、会社法及び金融商品取引法に基づく会計監査について有限責任監査法人トーマツと監査契約を締結し、会計監査を受けております。当事業年度において業務を執行した公認会計士の氏名及び継続監査年数、監査業務に係る補助者の構成については以下のとおりです。なお、同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には、特別な利害関係はありません。

業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員 安藤 泰蔵（継続監査年数1年）

指定有限責任社員 業務執行社員 関口 浩一（継続監査年数6年）

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 7名 その他 11名

(5) 社外取締役及び社外監査役

当社では、社外取締役1名及び社外監査役2名を選任しております。

社外取締役及び社外監査役は、いずれも当社株式を保有しておりますが、それ以外に当社との間に特別の利害関係はなく、また当社及び当社グループ会社、主要な取引先の出身者ではなく、その役割を果たす上で十分な独立性を有していると認識しております。

社外取締役は、取締役会において豊富な経営経験に基づいた発言を行い、当社グループの経営体制を強化するための重要な助言を行っております。また、社外監査役は、取締役会及び監査役会において業務上の豊富な経験または財務・会計の専門的見地に基づき、意思決定の妥当性・適正性を確保するための提言を行っております。

当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針は定めておりませんが、その選任にあたっては、上記の機能・役割を踏まえ、社外における経験及び専門的見地等を勘案の上、個別に判断して候補者を決定しております。

なお、社外取締役及び社外監査役は、取締役会及び必要に応じて重要会議に出席する他、監査部門その他社内各部署からの情報提供や連携を通じ、経営全般の監督・監視を行う体制としております。

(6) 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役及び社外監査役との間で、責任限定契約を締結することができる旨の規定を定款に定めておりますが、有価証券報告書提出日現在において、責任限定契約は締結しておりません。

(7) 役員報酬等

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与 (業績連動報酬)	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	98,000	86,510	-	-	11,490	5
監査役 (社外監査役を除く。)	14,650	13,510	-	-	1,140	1
社外役員	15,980	15,215	-	-	765	4

- (注) 1. 上記には、平成24年3月24日開催の第33回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名及び社外監査役1名を含んでおります。
2. 取締役の報酬限度額は、平成19年3月24日開催の第28回定時株主総会において年額180,000千円以内(ただし、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まない。)と決議しております。
3. 監査役の報酬限度額は、平成19年3月24日開催の第28回定時株主総会において年額36,000千円以内と決議しております。
4. 上記退職慰労金の額は、当事業年度に役員退職慰労引当金として費用処理した額であります。
5. 上記のほか、平成24年3月24日開催の第33回定時株主総会決議に基づき、役員退職慰労金を以下のとおり支給しております。
- 退任取締役 1名 29,842千円
 退任監査役 1名 690千円(うち社外監査役 1名 690千円)
- なお、この金額には過年度における役員退職慰労引当金繰入額が含まれております。
6. 当事業年度に係る取締役に対する業績連動報酬については、当期の業績が支給基準に満たなかったため、平成25年2月13日開催の取締役会において支給しない旨を決定しております。

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

a. 取締役の報酬

取締役の報酬は、固定報酬である基本報酬と、業績目標の達成度に応じた業績連動報酬及び退任時に支払われる退職慰労金で構成されております。

基本報酬は、各取締役の役職・職責、当社経営環境及び業績等を考慮して、取締役会の授権を受けた代表取締役社長が一定の基準に基づき決定しております。

業績連動報酬は、事業年度の終了後に業績目標の達成度に応じて、以下の算定方法に基づき取締役会において決定しております。

退職慰労金は、取締役の在任期間に対して、別途定めた「役員退職慰労金支給規程」に基づき取締役会において決定しております。

(業績連動報酬の算定方法)

- 1) 当該年度の「連結経常利益増減率」と「連結売上高計画達成率」及び「連結当期純利益額」から以下の計算式に基づき支給総額を算出する。

$$\text{「業績連動報酬総額」} = \{ \text{「連結当期純利益額」} \times 5/100 \times \text{「連結経常利益対前年増減率」} + \text{「連結当期純利益額」} \times (\text{「連結売上高計画達成率」} \times 1/10 - 0.09) \} \times 8/10$$
- 2) 自己資本連結当期純利益率が8%を上回った場合、かつ、連結売上高計画達成率が90%以上の場合にのみ支給する。
- 3) ただし、上記算出額にかかわらず、総額の上限は「連結当期純利益額の4%まで」とし、かつ1億円を超えない額とする。
- 4) 各取締役への配分は、各取締役の年俸額(固定部分)比例により配分する。

(注) 1) 及び2) に定める「連結売上高計画達成率」の算定の基礎となる連結売上高計画値は、毎期初に開催される取締役会において決定・公表した通期の連結売上高計画値とし、その後に当該計画値を修正した場合においても、修正後の数値は用いないものとする。

なお、第34期(平成24年1月1日～平成24年12月31日)期初において決定・公表した通期の連結売上高計画値は23,000百万円であります。

(第35期(平成25年12月期)の業績連動報酬の算定方法)

第35期(平成25年12月期)の業績連動報酬の算定方法については、平成25年2月13日開催の取締役会において、第34期(平成24年12月期)と同様の算定方法とすることを決議しております。また、本決議に際しては、監査役全員の同意を得ております。なお、第35期(平成25年1月1日～平成25年12月31日)期初において決定・公表した通期の連結売上高計画値は25,000百万円であります。

b. 監査役の報酬

監査役の報酬は、固定報酬である基本報酬及び退任時に支払われる退職慰労金で構成されております。

基本報酬は、各監査役の役職・職責に応じて、また、退職慰労金につきましては、監査役の在任期間に対して、別途定めた「役員退職慰労金支給規程」に基づき、それぞれ監査役の協議によって決定しております。

(8) 株式の保有状況

投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
 15銘柄 287百万円

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
 前事業年度
 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
I D E C(株)	180,000	146	業務提携推進のため
二チコン(株)	42,900	33	取引関係の維持・発展のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	101,400	33	取引関係の維持・発展のため
(株)滋賀銀行	54,000	28	取引関係の維持・発展のため
(株)関西アーバン銀行	33,750	4	取引関係の維持・発展のため
(株)リミックスポイント	100	0	取引関係の維持・発展のため

当事業年度
 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
I D E C(株)	180,000	144	業務提携推進のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	101,400	46	取引関係の維持・発展のため
二チコン(株)	42,900	31	取引関係の維持・発展のため
(株)滋賀銀行	54,000	28	取引関係の維持・発展のため
(株)関西アーバン銀行	33,750	3	取引関係の維持・発展のため
(株)リミックスポイント	100	1	取引関係の維持・発展のため

保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

	前事業年度 (百万円)	当事業年度(百万円)			
	貸借対照表計上額の合計額	貸借対照表計上額の合計額	受取配当金の合計額	売却損益の合計額	評価損益の合計額
非上場株式	-	-	-	-	-
上記以外の株式	13	6	0	4	1

投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの銘柄、株式数、貸借対照表計上額

該当事項はありません。

投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの銘柄、株式数、貸借対照表計上額

該当事項はありません。

(9) 取締役の定数

当社は、取締役の定数を9名以内とする旨定款に定めております。

(10) 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

(11) 取締役会で決議することができる株主総会決議事項

自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能と

することを目的とするものであります。

中間配当の決定機関

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年6月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能とすることを目的とするものであります。

(12) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって決議を行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	34	-	34	-
連結子会社	19	-	18	-
計	53	-	53	-

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の連結子会社であるOPTEX (DONGGUAN)CO.,LTD.他2社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているDeloitte Touche Tohmatsuグループに対して、監査証明業務等に基づく報酬9百万円を支払っております。

(当連結会計年度)

当社の連結子会社であるOPTEX (DONGGUAN)CO.,LTD.他3社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているDeloitte Touche Tohmatsuグループに対して、監査証明業務等に基づく報酬10百万円を支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社監査法人に対する監査報酬は、監査日数、当社の規模や事業の特性等を勘案し、当社監査役会の同意を得た上で、適切に決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成24年1月1日から平成24年12月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成24年1月1日から平成24年12月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、各種セミナーへの参加及び専門誌の購読を行っております。

1【連結財務諸表等】
(1)【連結財務諸表】
【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,523	6,912
受取手形及び売掛金	3,803	4,389
有価証券	1,078	851
商品及び製品	1,721	1,818
仕掛品	82	60
原材料及び貯蔵品	877	1,077
繰延税金資産	408	381
その他	591	460
貸倒引当金	20	19
流動資産合計	15,066	15,933
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,884	2,906
減価償却累計額	1,692	1,768
建物及び構築物(純額)	1,191	1,137
機械装置及び運搬具	595	821
減価償却累計額	389	496
機械装置及び運搬具(純額)	205	324
工具、器具及び備品	3,872	3,820
減価償却累計額	3,565	3,543
工具、器具及び備品(純額)	307	277
土地	² 1,203	² 1,203
建設仮勘定	113	21
有形固定資産合計	3,022	2,963
無形固定資産		
のれん	102	828
その他	464	504
無形固定資産合計	567	1,332
投資その他の資産		
投資有価証券	¹ 2,192	¹ 2,518
長期貸付金	26	29
繰延税金資産	727	574
その他	334	358
貸倒引当金	48	46
投資その他の資産合計	3,232	3,434
固定資産合計	6,822	7,730
資産合計	21,889	23,664

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	788	1,031
短期借入金	194	483
未払金	443	455
未払法人税等	372	265
繰延税金負債	4	11
賞与引当金	68	82
役員賞与引当金	6	-
その他	373	384
流動負債合計	2,252	2,714
固定負債		
繰延税金負債	64	94
再評価に係る繰延税金負債	2 6	2 6
退職給付引当金	794	835
役員退職慰労引当金	450	465
その他	16	15
固定負債合計	1,331	1,416
負債合計	3,584	4,131
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,798	2,798
資本剰余金	3,653	3,653
利益剰余金	12,855	13,184
自己株式	538	538
株主資本合計	18,769	19,097
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	67	26
土地再評価差額金	2 11	2 11
為替換算調整勘定	1,569	803
その他の包括利益累計額合計	1,625	766
新株予約権	3	9
少数株主持分	1,157	1,191
純資産合計	18,304	19,532
負債純資産合計	21,889	23,664

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
売上高	18,502	20,699
売上原価	8,963	10,530
売上総利益	9,538	10,169
販売費及び一般管理費		
役員報酬及び給料手当	2,938	3,129
賞与引当金繰入額	30	33
退職給付費用	109	116
役員退職慰労引当金繰入額	34	45
役員賞与引当金繰入額	6	2
貸倒引当金繰入額	1	6
研究開発費	1,598	1,722
その他	3,141	3,713
販売費及び一般管理費合計	7,861	8,771
営業利益	1,677	1,398
営業外収益		
受取利息	79	61
受取配当金	24	25
受取賃貸料	18	19
為替差益	-	151
持分法による投資利益	13	0
保険返戻金	58	38
その他	39	23
営業外収益合計	233	320
営業外費用		
支払利息	2	3
為替差損	41	-
賃貸費用	19	20
投資事業組合運用損	11	3
その他	5	8
営業外費用合計	80	37
経常利益	1,830	1,680
特別利益		
固定資産売却益	2 6	2 0
持分変動利益	0	-
投資有価証券売却益	0	7
受取和解金	25	-
特別利益合計	31	8

	前連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
特別損失		
固定資産除売却損	3 15	3 9
投資有価証券評価損	35	-
のれん減損損失	-	4 41
持分変動損失	-	0
特別損失合計	50	50
税金等調整前当期純利益	1,811	1,638
法人税、住民税及び事業税	651	596
法人税等調整額	20	147
法人税等合計	672	744
少数株主損益調整前当期純利益	1,139	894
少数株主利益	105	68
当期純利益	1,033	825

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	1,139	894
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	28	109
土地再評価差額金	0	-
為替換算調整勘定	192	768
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	220	878
包括利益	919	1,772
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	814	1,684
少数株主に係る包括利益	105	87

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	2,798	2,798
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,798	2,798
資本剰余金		
当期首残高	3,653	3,653
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,653	3,653
利益剰余金		
当期首残高	12,318	12,855
当期変動額		
剰余金の配当	496	496
当期純利益	1,033	825
当期変動額合計	536	328
当期末残高	12,855	13,184
自己株式		
当期首残高	537	538
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	538	538
株主資本合計		
当期首残高	18,232	18,769
当期変動額		
剰余金の配当	496	496
当期純利益	1,033	825
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	536	328
当期末残高	18,769	19,097
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	37	67
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	29	93
当期変動額合計	29	93
当期末残高	67	26
土地再評価差額金		
当期首残高	10	11
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	-
当期変動額合計	0	-
当期末残高	11	11

	前連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
為替換算調整勘定		
当期首残高	1,379	1,569
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	190	765
当期変動額合計	190	765
当期末残高	1,569	803
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,406	1,625
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	219	859
当期変動額合計	219	859
当期末残高	1,625	766
新株予約権		
当期首残高	4	3
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1	5
当期変動額合計	1	5
当期末残高	3	9
少数株主持分		
当期首残高	1,094	1,157
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	63	34
当期変動額合計	63	34
当期末残高	1,157	1,191
純資産合計		
当期首残高	17,925	18,304
当期変動額		
剰余金の配当	496	496
当期純利益	1,033	825
自己株式の取得	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	156	899
当期変動額合計	379	1,228
当期末残高	18,304	19,532

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,811	1,638
減価償却費	458	558
のれん償却額	45	200
退職給付引当金の増減額（ は減少）	60	40
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少）	34	15
貸倒引当金の増減額（ は減少）	6	4
受取利息及び受取配当金	104	87
支払利息	2	3
為替差損益（ は益）	6	1
持分法による投資損益（ は益）	13	0
投資有価証券評価損益（ は益）	35	-
投資有価証券売却損益（ は益）	0	7
固定資産除売却損益（ は益）	9	8
のれん減損損失	-	41
売上債権の増減額（ は増加）	189	132
たな卸資産の増減額（ は増加）	271	34
仕入債務の増減額（ は減少）	81	163
その他	40	148
小計	2,000	2,296
利息及び配当金の受取額	108	90
利息の支払額	1	3
法人税等の支払額又は還付額（ は支払）	732	743
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,375	1,640
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	1,628	902
有価証券の売却及び償還による収入	2,316	1,652
投資有価証券の取得による支出	937	853
投資有価証券の売却による収入	234	200
有形固定資産の取得による支出	448	396
有形固定資産の売却による収入	13	2
無形固定資産の取得による支出	96	109
子会社株式の取得による支出	-	76
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	2 885
貸付けによる支出	3	23
貸付金の回収による収入	1	20
その他	25	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	524	1,371

	前連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	0	233
配当金の支払額	497	498
少数株主からの払込みによる収入	7	2
少数株主への配当金の支払額	51	50
自己株式の取得による支出	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	540	312
現金及び現金同等物に係る換算差額	129	433
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	180	389
現金及び現金同等物の期首残高	6,343	₁ 6,523
現金及び現金同等物の期末残高	₁ 6,523	₁ 6,912

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1．連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 21社

連結子会社の名称

オプテックス・エフエー(株)

日本エフ・エーシステム(株)

技研トラステム(株)

(株)ジーニック

OPTEX INCORPORATED

OPTEX DO BRASIL LTDA.

OPTEX TECHNOLOGIES INC.

FIBER SENSYS INC.

RAYTEC SYSTEMS INC.

OPTEX(EUROPE), LTD.

FARSIGHT SECURITY SERVICES,LTD.

RAYTEC LIMITED

OPTEX SECURITY SAS

OPTEX TECHNOLOGIES B.V.

OPTEX SECURITY Sp.z o.o.

OPTEX SECURITY,LLC

OPTEX KOREA CO., LTD.

OPTEX PINNACLE INDIA PRIVATE LIMITED

OPTEX(H.K.),LTD.

OPTEX(DONGGUAN) CO.,LTD.

オーパルオプテックス(株)

なお、当連結会計年度においてRAYTEC LIMITED及びRAYTEC SYSTEMS INC.の全株式を取得し、またOPTEX DO BRASIL LTDA.及びOPTEX PINNACLE INDIA PRIVATE LIMITEDを新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

2．持分法の適用に関する事項

持分法を適用した関連会社の数 2社

持分法適用関連会社の名称

ジックオプテックス(株)

オフロム(株)

持分法を適用していない関連会社の数 1社

持分法非適用関連会社の名称

(株)イー・ルミネックス

持分法を適用しない理由

当期純利益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性が乏しいため、持分法の適用範囲から除外しております。

3．連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4．会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

(イ) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

(ロ) その他有価証券

時価のあるもの

当連結会計年度末の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

主として総平均法による原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

デリバティブ

時価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法を、また在外連結子会社は主として定額法を採用しております。（ただし、当社及び国内連結子会社は平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法によっております。）

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 7～38年

工具器具及び備品 2～15年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数として、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

長期前払費用

契約期間等に対応した定額法

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、主として連結会社間の債権債務を相殺消去した後の金額を基礎として、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、主として支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

役員賞与引当金

役員の賞与の支給に備えるため、主として支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理しております。

役員退職慰労引当金

当社及び国内連結子会社は、役員の退職慰労金の支給に備えるため、規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、当連結会計年度末の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社等の資産及び負債は連結会計年度末の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、個別案件ごとに判断し、20年以内の合理的な年数で定額法により償却しております。また、金額が僅少な場合は、当該勘定が生じた年度の損益としております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクシカ負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

該当事項はありません。

【未適用の会計基準等】

(連結財務諸表に関する会計基準等)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)の公表

(1) 概要

本会計基準等は財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を図っております。

(2) 適用予定日

平成26年1月1日以降開始する連結会計年度の期末から適用予定であります。

(3) 当会計基準等の適用による影響

連結財務諸表作成時において連結財務諸表に与える影響は、現在評価中であります。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
投資有価証券(株式)	194百万円	194百万円

2 連結財務諸表提出会社は「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成11年3月31日公布法律第24号)に基づき事業用土地の再評価を行い、当該評価差額のうち法人税その他の利益に関連する金額を課税標準とする税金に相当する金額を土地再評価に係る繰延税金負債として負債の部に計上し、当該繰延税金負債を控除した金額を土地再評価差額金として純資産の部に計上しております。

再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69号)第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために、国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額に基づいて、奥行価格補正等合理的な調整を行って算出したほか、第5号に定める不動産鑑定評価額に基づいて算出しております。

再評価を行った年月日 平成11年12月31日

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
当該事業用土地の再評価直前の帳簿価額	715百万円	715百万円
当該事業用土地の再評価後の帳簿価額	732	732

なお、当該事業用地の時価の合計額は、再評価後の帳簿価額の合計額を前連結会計年度340百万円、当連結会計年度387百万円下回っております。

(連結損益計算書関係)

1 研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
	1,598百万円	1,722百万円

2 固定資産売却益の主な内容

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
機械装置及び運搬具	6百万円	0百万円
		工具、器具及び備品 0百万円
計	6	0

3 固定資産除売却損の主な内容

	前連結会計年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)
建物及び構築物	8百万円	0百万円
機械装置及び運搬具	0	1
工具、器具及び備品	6	7
ソフトウェア	1	
計	15	9

4 のれん減損損失の主な内容

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。

種類	対象	減損損失
のれん	(株)ジーニックの株式買収によって発生したのれん	41百万円

(資産のグルーピング方法)

事業用資産については、原則として管理会計上の区分に基づきグルーピングを行っております。

(減損損失に至った経緯)

取得時に検討した事業計画において、当初想定していた収益が見込めなくなったことから減損損失を認識しております。

(回収可能性の算定方法)

帳簿価額を全額減損損失としております。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金

当期発生額 193百万円

組替調整額 7

税効果調整前 186

税効果額 76

その他有価証券評価差額金 109

為替換算調整勘定

当期発生額 768

持分法適用会社に対する持分相当額

当期発生額 0

その他の包括利益合計 878

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	16,984,596	-	-	16,984,596
合計	16,984,596	-	-	16,984,596
自己株式				
普通株式(注)	432,662	360	-	433,022
合計	432,662	360	-	433,022

(注) 普通株式の自己株式数の増加360株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(百万円)
			当連結会計年度期首	当連結会計年度増加	当連結会計年度減少	当連結会計年度末	
連結子会社	ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	3
合計		-	-	-	-	-	3

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年3月26日 定時株主総会	普通株式	248	15	平成22年12月31日	平成23年3月28日
平成23年8月3日 取締役会	普通株式	248	15	平成23年6月30日	平成23年9月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年3月24日 定時株主総会	普通株式	248	利益剰余金	15	平成23年12月31日	平成24年3月26日

当連結会計年度（自平成24年1月1日至平成24年12月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首株式数（株）	当連結会計年度増加株式数（株）	当連結会計年度減少株式数（株）	当連結会計年度末株式数（株）
発行済株式				
普通株式	16,984,596	-	-	16,984,596
合計	16,984,596	-	-	16,984,596
自己株式				
普通株式（注）	433,022	210	-	433,232
合計	433,022	210	-	433,232

（注）普通株式の自己株式数の増加210株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数（株）				当連結会計年度末残高（百万円）
			当連結会計年度期首	当連結会計年度増加	当連結会計年度減少	当連結会計年度末	
連結子会社	ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	9
	合計	-	-	-	-	-	9

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成24年3月24日 定時株主総会	普通株式	248	15	平成23年12月31日	平成24年3月26日
平成24年8月3日 取締役会	普通株式	248	15	平成24年6月30日	平成24年9月4日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額（百万円）	配当の原資	1株当たり配当額（円）	基準日	効力発生日
平成25年3月23日 定時株主総会	普通株式	248	利益剰余金	15	平成24年12月31日	平成25年3月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
	現金及び預金勘定	6,523百万円
現金及び現金同等物	6,523	6,912

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の取得により新たにRAYTEC LIMITEDを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに
 同社株式の取得価額及び同社取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	677百万円
固定資産	28
のれん	819
流動負債	228
少数株主持分	30
株式の取得価額	1,266
現金及び現金同等物	381
株式取得のための支出	885

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

該当ありません。

(イ)無形固定資産

該当ありません。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度(平成23年12月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
ソフトウェア	47	45	1
工具、器具及び備品	4	3	0
合計	51	49	1

(単位：百万円)

	当連結会計年度(平成24年12月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
ソフトウェア	47	47	-
工具、器具及び備品	4	4	-
合計	51	51	-

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い場合、支払利子込み法により算定しております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	1	-
1年超	-	-
合計	1	-

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い
 ため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
支払リース料	10	1
減価償却費相当額	10	1

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループでは、余資は主として安全性の高い金融資産で運用しております。また、デリバティブ取引は営業債権の為替変動リスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）に晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの社内規定に従い、取引先ごとに回収期日及び残高を管理することにより、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、外貨建ての営業債権は為替の変動リスクに晒されておりますが、一部は先物為替予約等を利用してヘッジしております。

有価証券及び投資有価証券である株式並びに債券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。債券は取締役会の承認を受けた社内方針に従い、一定の格付以上の債券を対象としているため、信用リスクは僅少であります。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であり、流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）に晒されておりますが、当社グループでは、適時に資金繰計画を作成・更新するなどの方法により管理しております。

デリバティブ取引は、取締役会の承認を受けた社内方針に従って行っており、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2参照）。

前連結会計年度（平成23年12月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	6,523	6,523	-
(2) 受取手形及び売掛金	3,803	3,803	-
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	100	100	0
その他有価証券	2,735	2,735	-
資産計	13,162	13,162	0
(1) 支払手形及び買掛金	788	788	-
(2) 短期借入金	194	194	-
(3) 未払法人税等	372	372	-
負債計	1,355	1,355	-
デリバティブ取引()	0	0	-

()デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

当連結会計年度（平成24年12月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	6,912	6,912	-
(2) 受取手形及び売掛金	4,389	4,389	-
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	100	101	1
その他有価証券	2,855	2,855	-
資産計	14,258	14,260	1
(1) 支払手形及び買掛金	1,031	1,031	-
(2) 短期借入金	483	483	-
(3) 未払法人税等	265	265	-
負債計	1,780	1,780	-
デリバティブ取引()	6	6	-

()デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
非上場株式	76	76
関係会社株式	194	194
投資事業有限責任組合出資証券	165	143

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
 前連結会計年度（平成23年12月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	6,523	-	-	-
受取手形及び売掛金	3,803	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1) 国債・地方債等	-	-	-	-
(2) 社債	-	-	100	-
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) 債券（社債）	1,080	100	-	-
(2) その他	-	381	83	600
合計	11,406	481	183	600

当連結会計年度（平成24年12月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	6,912	-	-	-
受取手形及び売掛金	4,389	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1) 国債・地方債等	-	-	-	-
(2) 社債	-	-	100	-
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) 債券（社債）	400	200	-	-
(2) その他	451	478	135	600
合計	12,153	678	235	600

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成23年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照 表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	100	100	0
	(3) その他	-	-	-
	小計	100	100	0
時価が連結貸借対照 表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		100	100	0

当連結会計年度(平成24年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
時価が連結貸借対照 表計上額を超えるもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	100	101	1
	(3) その他	-	-	-
	小計	100	101	1
時価が連結貸借対照 表計上額を超えないもの	(1) 国債・地方債等	-	-	-
	(2) 社債	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		100	101	1

2. その他有価証券

前連結会計年度（平成23年12月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	258	196	61
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	300	300	0
	その他	-	-	-
	(3) その他	50	49	0
	小計	608	546	62
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	48	51	2
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	1,172	1,180	8
	その他	521	700	178
	(3) その他	383	427	43
	小計	2,126	2,359	233
	合計	2,735	2,906	171

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額76百万円）及び投資事業有限責任組合出資証券（連結貸借対照表計上額165百万円）については市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表には含めておりません。

当連結会計年度（平成24年12月31日）

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	313	237	75
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	601	599	1
	その他	453	451	2
	(3) その他	463	418	44
	小計	1,832	1,706	125
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	4	5	0
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	298	299	1
	その他	580	700	119
	(3) その他	140	147	6
	小計	1,023	1,152	128
	合計	2,855	2,859	3

(注) 非上場株式（連結貸借対照表計上額76百万円）及び投資事業有限責任組合出資証券（連結貸借対照表計上額143百万円）については市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表には含めておりません。

3. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	99	0	-
その他	-	-	-
(3) その他	180	0	0
合計	280	0	0

当連結会計年度(自平成24年1月1日至平成24年12月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	11	4	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	100	0	-
その他	-	-	-
(3) その他	38	1	-
合計	150	7	-

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(平成23年12月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建				
	コール				
	米ドル	81	-	0	0
	合計	81	-	0	0

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成24年12月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建				
	コール				
	米ドル	308	-	6	6
	合計	308	-	6	6

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、確定拠出年金と退職一時金を組み合わせた退職給付制度を採用しているほか、複数事業主制度による厚生年金基金及び中小企業退職金共済に加入しております。また、一部の海外連結子会社は、確定拠出型制度等を設けております。

なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次のとおりであります。

前連結会計年度(平成23年12月31日)

制度全体の積立状況に関する事項(平成23年3月31日現在)

	滋賀経済産業 厚生年金基金	全国電子情報技術 産業厚生年金基金
年金資産の額	9,258百万円	186,324百万円
年金財政計算上の給付債務の額	10,574百万円	220,188百万円
差引額	1,315百万円	33,864百万円

制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合(平成23年3月31日現在)

滋賀経済産業厚生年金基金	全国電子情報技術産業厚生年金基金
10.69%	0.21%

補足説明

滋賀経済産業厚生年金基金

上記の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高503百万円及び資産評価調整加算額812百万円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は当期1年据置、期間11年の元利均等償却であり、当期の連結財務諸表上、特別掛金6百万円を費用処理しております。

全国電子情報技術産業厚生年金基金

上記の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高17,266百万円及び繰越不足額16,597百万円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年の元利均等償却であります。

なお、上記の割合は、当社の実際の負担額とは一致しません。

当連結会計年度(平成24年12月31日)

制度全体の積立状況に関する事項(平成24年3月31日現在)

	滋賀経済産業 厚生年金基金	全国電子情報技術 産業厚生年金基金
年金資産の額	9,666百万円	191,383百万円
年金財政計算上の給付債務の額	11,114百万円	230,272百万円
差引額	1,447百万円	38,889百万円

制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合(平成24年3月31日現在)

滋賀経済産業厚生年金基金	全国電子情報技術産業厚生年金基金
10.94%	0.25%

補足説明

滋賀経済産業厚生年金基金

上記の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高427百万円及び資産評価調整加算額1,050百万円、剰余金30百万円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は当期1年据置、期間11年の元利均等償却であり、当期の連結財務諸表上、特別掛金6百万円を費用処理しております。

全国電子情報技術産業厚生年金基金

上記の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高35,529百万円及び繰越不足額3,359百万円であります。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年の元利均等償却であります。

なお、上記の割合は、当社の実際の負担額とは一致しません。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
(1) 退職給付債務(百万円)	699	747
(2) 年金資産(百万円)	-	-
(3) 未積立退職給付債務(1) + (2)(百万円)	699	747
(4) 未認識数理計算上の差異(百万円)	5	0
(5) 未認識過去勤務債務(債務の減額)(百万円)	101	88
(6) 連結貸借対照表計上額純額(3) + (4) + (5)(百万円)	794	835
(7) 前払年金費用(百万円)	-	-
(8) 退職給付引当金(6) - (7)(百万円)	794	835

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
退職給付費用(百万円)	162	170
(1) 勤務費用(百万円)	58	59
(2) 利息費用(百万円)	8	9
(3) 数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	7	4
(4) 過去勤務債務の費用処理額(百万円)	12	12
(5) 厚生年金基金への掛金額(百万円)	65	68
(6) 確定拠出年金への掛金支払額(百万円)	35	40

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法
 期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
2.0%	2.0%

(3) 数理計算上の差異の処理年数

発生年度の翌期から10年間で定額法により費用処理しております。

(4) 過去勤務債務の処理年数

発生年度の翌期から10年間で定額法により費用処理しております。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
販売費及び一般管理費	0	8

2. スtock・オプションの権利不行使による失効により利益として計上した金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
営業外収益「その他」	-	2

3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

会社名	オプテックス・エフエー(株) 平成20年 ストック・オプション	オプテックス・エフエー(株) 平成23年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	同社取締役 5名 同社従業員 18名	同社取締役 5名 同社従業員 35名
ストック・オプション数(注)	普通株式 50,000株	普通株式 94,500株
付与日	平成20年12月1日	平成23年12月1日
権利確定条件	権利確定日まで継続して、同社または同社の関係会社の取締役、監査役または従業員の地位にあること。	権利確定日まで継続して、同社または同社の関係会社の取締役、監査役または従業員の地位にあること。
対象勤務期間	自平成20年12月2日 至平成22年12月1日	自平成23年12月2日 至平成25年12月31日
権利行使期間	自平成22年12月2日 至平成24年11月30日	自平成26年1月1日 至平成28年12月31日

(注) 株式数に換算しております。

なお、平成23年1月1日付株式分割(普通株式1株を200株に分割)による分割後の株式数に換算して記載しております。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

会社名	オプテックス・エフエー(株) 平成20年 ストック・オプション	オプテックス・エフエー(株) 平成23年 ストック・オプション
権利確定前 (株)		
前連結会計年度末	-	94,500
付与	-	-
失効	-	-
権利確定	-	-
未確定残	-	94,500
権利確定後 (株)		
前連結会計年度末	31,600	-
権利確定	-	-
権利行使	7,400	-
失効	24,200	-
未行使残	-	-

(注) 平成23年1月1日付株式分割(普通株式1株を200株に分割)による分割後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

会社名	オプテックス・エフエー(株) 平成20年 ストック・オプション	オプテックス・エフエー(株) 平成23年 ストック・オプション
権利行使価格 (円)	421	787
行使時平均株価 (円)	552	-
公正な評価単価(付与日)(円)	100	198

(注)平成23年1月1日付株式分割(普通株式1株を200株に分割)による分割後の価格に換算して記載しております。

4. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度に付与されたストック・オプションはありません。

5. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
繰延税金資産(流動)		
たな卸資産の未実現利益	171百万円	153百万円
たな卸資産	143	125
未払事業税	29	23
賞与引当金	28	21
その他	46	69
小計	418	394
評価性引当金	10	12
繰延税金資産(流動)計	408	381
繰延税金負債(流動)		
その他	4	11
繰延税金負債(流動)計	4	11
繰延税金資産(流動)の純額	403	370
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金	279	293
関係会社株式	136	232
役員退職慰労引当金	160	164
繰越欠損金	129	149
土地	96	84
研究開発費	71	74
投資有価証券	211	52
その他	84	88
小計	1,169	1,140
評価性引当金	442	565
繰延税金資産(固定)計	727	574
繰延税金負債(固定)		
留保利益	63	94
その他	0	-
繰延税金負債(固定)計	64	94
繰延税金資産(固定)の純額	663	480

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当連結会計年度 (平成24年12月31日)
法定実効税率	40.44%	40.44%
(調整)		
試験研究費税額控除	4.41	5.77
のれん	0.96	5.80
評価性引当金	0.98	4.71
子会社との税率の差異	4.89	4.61
海外子会社の留保利益	0.40	2.45
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	3.45	0.85
交際費等永久に益金に算入されない項目	0.46	0.79
住民税均等割	0.58	0.73
外国税額控除	0.07	0.23
持分法損益	0.30	0.00
その他	0.51	0.26
税効果会計適用後の法人税等の負担率	37.10	45.42

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1 . 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 RAYTEC LIMITED

事業の内容 監視カメラ用補助照明の開発、製造、販売

(2) 企業結合を行った主な理由

当社の屋外用センシング技術及びLED照明・調光システムと、同社が保有する多彩な照明製品を融合させることで、更なる事業領域の拡大を目指すためであります。

(3) 企業結合日

平成24年1月31日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

(5) 結合後企業の名称

変更ありません。

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として、RAYTEC LIMITEDの全株式を取得したためであります。

2 . 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

平成24年1月1日から平成24年12月31日まで

3 . 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価 普通株式の取得原価	10,451千ポンド
取得原価	10,451千ポンド

4 . 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

6,764千ポンド

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものです。

(3) 償却方法及び償却期間

5年間で均等償却

5 . 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内容

流動資産	677百万円
固定資産	28
資産合計	705
流動負債	228
固定負債	-
負債合計	228

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品及びサービスの種類別に事業を展開しており、「センシング事業」、「F A事業」及び「生産受託事業」の3つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの主な製品群及びサービスは次のとおりであります。

セグメントの名称	主な製品群及びサービス
センシング事業	防犯関連、自動ドア関連、計測関連、交通関連
F A事業	ファクトリーオートメーション関連
生産受託事業	電子機器受託生産サービス

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結 財務諸表 計上額 (注)3
	センシング 事業	F A事業	生産受託 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	11,974	4,564	643	17,182	1,319	18,502	-	18,502
セグメント間の内部 売上高又は振替高	26	1	2,786	2,814	47	2,861	2,861	-
計	12,000	4,566	3,429	19,997	1,366	21,363	2,861	18,502
セグメント利益	1,059	454	98	1,611	43	1,655	21	1,677
セグメント資産	12,449	3,092	1,677	17,219	2,255	19,474	2,414	21,889
その他の項目								
減価償却費	278	79	69	428	15	444	-	444
のれんの償却額	3	-	-	3	41	45	-	45
持分法適用会社への 投資額	-	100	-	100	-	100	84	185
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	322	96	141	561	12	574	-	574

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業であり、客数情報システム・電子部品の開発及び販売、スポーツクラブの運営等の事業を含んでおります。

- セグメント利益の調整額21百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。セグメント資産の調整額2,414百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産2,925百万円、セグメント間の債権と債務の相殺消去額等511百万円によるものであります。全社資産は、提出会社の余資運用資金及び土地建物等に係る資産であります。
- セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	センシング 事業	F A事業	生産受託 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	13,964	4,406	1,000	19,371	1,328	20,699	-	20,699
セグメント間の内部 売上高又は振替高	24	1	2,819	2,846	84	2,931	2,931	-
計	13,989	4,408	3,820	22,217	1,413	23,630	2,931	20,699
セグメント利益	967	270	109	1,347	66	1,413	15	1,398
セグメント資産	13,837	3,180	2,082	19,100	2,217	21,318	2,346	23,664
その他の項目								
減価償却費	362	83	77	522	15	538	-	538
のれんの償却額	180	-	-	180	20	200	-	200
持分法適用会社への 投資額	-	102	-	102	-	102	81	183
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	1,187	37	96	1,322	10	1,333	-	1,333

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業であり、客数情報システム・電子部品の開発及び販売、スポーツクラブの運営等の事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 15百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

セグメント資産の調整額2,346百万円は、各報告セグメントに配分していない全社資産3,027百万円、セグメント間の債権と債務の相殺消去額等 681百万円によるものであります。全社資産は、提出会社の余資運用資金及び土地建物等に係る資産であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：百万円）

日本	北米	ヨーロッパ	アジア	その他	合計
6,698	1,821	6,520	2,604	856	18,502

(注) 1. 地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する主な地域の内訳は次のとおりであります。

(1) 北米 米国、カナダ

(2) ヨーロッパ ... ドイツ、イギリス、フランス、オランダ、ポーランド、ロシア、イタリア

(3) アジア 中国、香港、台湾、韓国

(4) その他 オセアニア、アフリカ、南米

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高（ただし、セグメント間の内部売上高を除く）であります。

(2) 有形固定資産

（単位：百万円）

日本	北米	ヨーロッパ	アジア	合計
2,672	35	71	242	3,022

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
S I C K A G	2,559	F A事業

当連結会計年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	北米	ヨーロッパ	アジア	その他	合計
7,263	2,202	7,183	3,027	1,021	20,699

(注) 1. 地域は、地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する主な地域の内訳は次のとおりであります。

(1) 北米 米国、カナダ

(2) ヨーロッパ ... ドイツ、イギリス、フランス、オランダ、ポーランド、ロシア、イタリア

(3) アジア 中国、香港、台湾、韓国

(4) その他 オセアニア、アフリカ、南米

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高(ただし、セグメント間の内部売上高を除く)であります。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	北米	ヨーロッパ	アジア	合計
2,562	34	156	209	2,963

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
S I C K A G	2,452	F A事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）

「その他」セグメントにおいて、株式会社ジーニックに関するのれんを、株式取得時に事業計画で想定していた収益が見込めなくなったことから全額減損損失としております。なお、当該事象によるのれんの減損額は41百万円であります。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	センシング 事業	F A事業	生産受託 事業	計		
当期償却額	3	-	-	3	41	45
当期末残高	40	-	-	40	62	102

（注）「その他」の金額は、報告セグメントに帰属しないのれんの償却に係るものであります。

当連結会計年度（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	センシング 事業	F A事業	生産受託 事業	計		
当期償却額	180	-	-	180	20	200
当期末残高	828	-	-	828	-	828

（注）「その他」の金額は、報告セグメントに帰属しないのれんの償却に係るものであります。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日）

1. 関連当事者との取引

記載すべき事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

記載すべき事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日）

1. 関連当事者との取引

記載すべき事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

記載すべき事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)		当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)	
1株当たり純資産額	1,035円75銭	1株当たり純資産額	1,107円53銭
1株当たり当期純利益	62円45銭	1株当たり当期純利益	49円88銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	62円42銭	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	49円87銭

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	18,304	19,532
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	1,161	1,201
(うち少数株主持分)	(1,157)	(1,191)
(うち新株予約権)	(3)	(9)
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	17,143	18,331
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	16,551,574	16,551,364

(注) 2. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当連結会計年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	1,033	825
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,033	825
期中平均株式数(株)	16,551,697	16,551,437
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(百万円)	0	0
(うち少数株主利益)	(0)	(0)
普通株式増加数(株)	-	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整 後1株当たり当期純利益の算定に含めな かった潜在株式の概要	連結子会社 平成23年3月25日定時株主総会 決議による新株予約権 普通株式 94,500株	連結子会社 平成23年3月25日定時株主総会 決議による新株予約権 普通株式 94,500株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	194	483	0.6	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	194	483	-	-

(注)平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	5,075	10,183	15,302	20,699
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(百万円)	380	606	1,001	1,638
四半期(当期)純利益金額 (百万円)	178	222	466	825
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	10.81	13.47	28.17	49.88

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	10.81	2.66	14.70	21.71

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,549	1,794
受取手形	618	691
売掛金	¹ 1,710	¹ 1,850
有価証券	1,078	851
商品及び製品	988	1,072
原材料及び貯蔵品	312	269
前払費用	6	5
繰延税金資産	164	145
未収入金	¹ 317	¹ 344
その他	118	33
貸倒引当金	4	0
流動資産合計	7,860	7,058
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,427	2,427
減価償却累計額	1,349	1,408
建物（純額）	1,077	1,018
構築物	215	215
減価償却累計額	163	169
構築物（純額）	51	46
機械及び装置	22	53
減価償却累計額	21	20
機械及び装置（純額）	0	33
車両運搬具	6	6
減価償却累計額	6	6
車両運搬具（純額）	0	0
工具、器具及び備品	3,074	2,887
減価償却累計額	2,907	2,765
工具、器具及び備品（純額）	167	122
土地	² 1,115	² 1,115
建設仮勘定	14	12
有形固定資産合計	2,427	2,349
無形固定資産		
電話加入権	5	5
ソフトウェア	114	165
無形固定資産合計	119	170
投資その他の資産		
投資有価証券	1,379	1,643
関係会社株式	3,486	4,501
出資金	4	4
関係会社出資金	839	839
従業員に対する長期貸付金	23	26
破産更生債権等	46	44

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
長期前払費用	12	10
繰延税金資産	474	342
その他	65	66
貸倒引当金	48	46
投資その他の資産合計	6,281	7,431
固定資産合計	8,828	9,950
資産合計	16,688	17,009
負債の部		
流動負債		
買掛金	1 455	1 513
短期借入金	194	483
未払金	1 198	1 140
未払費用	81	72
未払法人税等	170	136
預り金	43	43
賞与引当金	28	31
その他	46	67
流動負債合計	1,218	1,488
固定負債		
再評価に係る繰延税金負債	2 6	2 6
退職給付引当金	572	592
役員退職慰労引当金	266	256
その他	2	2
固定負債合計	846	856
負債合計	2,065	2,345
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,798	2,798
資本剰余金		
資本準備金	3,649	3,649
資本剰余金合計	3,649	3,649
利益剰余金		
利益準備金	370	370
その他利益剰余金		
別途積立金	7,200	7,200
繰越利益剰余金	1,125	1,096
利益剰余金合計	8,695	8,666
自己株式	528	528
株主資本合計	14,615	14,585
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3	66
土地再評価差額金	2 11	2 11
評価・換算差額等合計	7	77
純資産合計	14,623	14,663
負債純資産合計	16,688	17,009

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
売上高		
商品及び製品売上高	9,105	9,424
売上高合計	<u>2 9,105</u>	<u>2 9,424</u>
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	813	988
当期商品及び製品仕入高	<u>2 4,812</u>	<u>2 4,935</u>
当期製品製造原価	<u>3 184</u>	<u>3 258</u>
合計	<u>5,811</u>	<u>6,182</u>
他勘定振替高	<u>1 76</u>	<u>1 91</u>
商品及び製品期末たな卸高	988	1,072
売上原価合計	<u>4,746</u>	<u>5,018</u>
売上総利益	<u>4,358</u>	<u>4,405</u>
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	152	190
貸倒引当金繰入額	2	2
従業員給料及び賞与	1,034	1,017
賞与引当金繰入額	17	19
退職給付費用	71	71
役員退職慰労引当金繰入額	10	20
減価償却費	46	47
支払手数料	165	205
研究開発費	<u>4 1,206</u>	<u>4 1,240</u>
その他	1,010	907
販売費及び一般管理費合計	<u>3,717</u>	<u>3,716</u>
営業利益	<u>641</u>	<u>688</u>
営業外収益		
受取利息	43	35
受取配当金	<u>2 485</u>	<u>2 174</u>
為替差益	-	178
受取賃貸料	<u>2 40</u>	<u>2 40</u>
その他	3	6
営業外収益合計	<u>573</u>	<u>435</u>
営業外費用		
支払利息	1	3
為替差損	74	-
賃貸費用	36	35
投資事業組合運用損	11	3
その他	1	2
営業外費用合計	<u>125</u>	<u>45</u>
経常利益	<u>1,089</u>	<u>1,078</u>

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
特別利益		
固定資産売却益	-	5 0
投資有価証券売却益	0	7
受取和解金	25	-
特別利益合計	25	7
特別損失		
固定資産除売却損	6 11	6 5
投資有価証券評価損	35	-
関係会社株式評価損	-	7 252
特別損失合計	46	257
税引前当期純利益	1,068	828
法人税、住民税及び事業税	255	251
法人税等調整額	3	110
法人税等合計	258	361
当期純利益	809	467

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	2,798	2,798
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,798	2,798
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	3,649	3,649
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,649	3,649
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	370	370
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	370	370
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	7,200	7,200
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	7,200	7,200
繰越利益剰余金		
当期首残高	813	1,125
当期変動額		
剰余金の配当	496	496
当期純利益	809	467
当期変動額合計	312	29
当期末残高	1,125	1,096
利益剰余金合計		
当期首残高	8,383	8,695
当期変動額		
剰余金の配当	496	496
当期純利益	809	467
当期変動額合計	312	29
当期末残高	8,695	8,666
自己株式		
当期首残高	527	528
当期変動額		
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	528	528

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
株主資本合計		
当期首残高	14,303	14,615
当期変動額		
剰余金の配当	496	496
当期純利益	809	467
自己株式の取得	0	0
当期変動額合計	312	29
当期末残高	14,615	14,585
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	28	3
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	32	70
当期変動額合計	32	70
当期末残高	3	66
土地再評価差額金		
当期首残高	10	11
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	-
当期変動額合計	0	-
当期末残高	11	11
評価・換算差額等合計		
当期首残高	39	7
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	31	70
当期変動額合計	31	70
当期末残高	7	77
純資産合計		
当期首残高	14,342	14,623
当期変動額		
剰余金の配当	496	496
当期純利益	809	467
自己株式の取得	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	31	70
当期変動額合計	280	40
当期末残高	14,623	14,663

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
 - 子会社株式及び関連会社株式
移動平均法による原価法
 - その他有価証券
 - 時価のあるもの
当期末の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
 - 時価のないもの
移動平均法による原価法
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法
 - (1) 商品・製品・原材料
総平均法に基づく原価法（収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）
 - (2) 貯蔵品
最終仕入原価法
3. デリバティブ等の評価基準及び評価方法
デリバティブ
時価法
4. 固定資産の減価償却の方法
 - (1) 有形固定資産（リース資産を除く）
 - 定率法
ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）は定額法によっております。
なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。
建物 15～38年
工具器具及び備品 2～15年
 - (2) 無形固定資産（リース資産を除く）
 - 定額法
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。
 - (3) リース資産
 - 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。
 - 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数として、残存価格を零とする定額法を採用しております。
なお、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
 - (4) 長期前払費用
契約期間等に対応した定額法
5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
外貨建金銭債権債務は、当期末の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
6. 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
 - (2) 賞与引当金
従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち、当期の負担額を計上しております。
 - (3) 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。
過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。
数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、規程に基づく期末要支給額を計上しております。

7. その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

該当事項はありません。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する主な資産及び負債は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
売掛金	810百万円	796百万円
未収入金	189	307
買掛金	271	291
未払金	27	27

2 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成11年3月31日公布法律第24号)に基づき事業用土地の再評価を行い、当該評価差額のうち法人税その他の利益に関連する金額を課税標準とする税金に相当する金額を土地再評価に係る繰延税金負債として負債の部に計上し、当該繰延税金負債を控除した金額を土地再評価差額金として純資産の部に計上しております。

再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69号)第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために、国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額に基づいて、奥行価格補正等合理的な調整を行って算出したほか、第5号に定める不動産鑑定評価額に基づいて算出しております。

再評価を行った年月日 平成11年12月31日

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
当該事業用土地の再評価直前の帳簿価額	715百万円	715百万円
当該事業用土地の再評価後の帳簿価額	732	732

なお、当該事業用土地の時価の合計額は、再評価後の帳簿価額の合計額を前事業年度340百万円、当事業年度387百万円下回っております。

(損益計算書関係)

1 他勘定振替高の内容

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
経費振替高	76百万円	91百万円

2 関係会社との主な取引

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
売上高	3,129百万円	2,998百万円
当期商品及び製品仕入高	3,112	3,269
受取配当金	460	147
受取賃貸料	21	21

3 製品製造原価は製造委託会社に負担させていない金型の減価償却費等を計上しております。

4 研究開発費の総額

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
	1,206百万円	1,240百万円

5 固定資産売却益の主な内容

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
		工具、器具及び備品 0百万円

6 固定資産除売却損の主な内容

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
建物	5百万円	建物 0百万円
工具、器具及び備品	5	機械及び装置 0
ソフトウェア	0	工具、器具及び備品 4

7 関係会社株式評価損の主な内容

前事業年度(自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)
 該当事項はありません。

当事業年度(自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)

当社が保有する関係会社株式のうち、(株)ジーニックについては当社の帳簿価額に対して純資産が著しく下落し、その回復の可能性があるため、減損処理を行っております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当期首株式数 (株)	当期増加株式数 (株)	当期減少株式数 (株)	当期末株式数 (株)
自己株式				
普通株式	424,082	360	-	424,442
合計	424,082	360	-	424,442

(注)普通株式の自己株式数の増加360株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

当事業年度(自平成24年1月1日至平成24年12月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当期首株式数 (株)	当期増加株式数 (株)	当期減少株式数 (株)	当期末株式数 (株)
自己株式				
普通株式	424,442	210	-	424,652
合計	424,442	210	-	424,652

(注)普通株式の自己株式数の増加210株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

該当ありません。

(イ)無形固定資産

該当ありません。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4.固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1)リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度(平成23年12月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
ソフトウェア	47	45	1
工具、器具及び備品	4	3	0
合計	51	49	1

(単位：百万円)

	当事業年度(平成24年12月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
ソフトウェア	47	47	-
工具、器具及び備品	4	4	-
合計	51	51	-

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い場合、支払利子込み法により算定しております。

(2)未経過リース料期末残高相当額等

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	1	-
1年超	-	-
合計	1	-

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低い場合、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日)	当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日)
支払リース料	10	1
減価償却費相当額	10	1

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

前事業年度(平成23年12月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
子会社株式	255	2,012	1,756
関連会社株式	-	-	-
合計	255	2,012	1,756

当事業年度(平成24年12月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
子会社株式	255	1,210	954
関連会社株式	-	-	-
合計	255	1,210	954

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
子会社株式	3,224	4,239
関連会社株式	6	6

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「子会社株式及び関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
繰延税金資産(流動)		
たな卸資産	94百万円	92百万円
事業税	18	16
賞与引当金	14	11
貯蔵品	11	11
その他	24	13
繰延税金資産(流動)計	164	145
繰延税金資産(固定)		
関係会社株式	137	231
退職給付引当金	203	209
役員退職慰労引当金	95	90
研究開発費	39	45
投資有価証券	156	35
その他	25	5
繰延税金資産(固定)小計	657	618
評価性引当金	183	275
繰延税金資産(固定)計	474	342
繰延税金資産の合計	638	487

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年12月31日)	当事業年度 (平成24年12月31日)
法定実効税率	40.44%	40.44%
(調整)		
評価性引当金の増減	0.02	12.81
試験研究費税額控除	5.69	7.54
受取配当金等永久に損金に算入されない項目	15.64	7.33
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	4.18	1.80
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.76	1.01
住民税等均等割	0.48	0.62
その他	0.34	1.80
税効果会計適用後の法人税等の負担率	24.21	43.61

(企業結合等関係)

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に記載しているため、注記を省略しております。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり純資産額	883円3銭	885円50銭
1株当たり当期純利益	48円89銭	28円20銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。	潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していません。

(注)1. 1株当たり純資産の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	14,623	14,663
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	14,623	14,663
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	16,560,154	16,559,944

(注)2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日)	当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日)
当期純利益(百万円)	809	467
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	809	467
期中平均株式数(株)	16,560,277	16,560,017

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
		IDE C(株)	180,000	144
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	101,400	46		
ニチコン(株)	42,900	31		
(株)滋賀銀行	54,000	28		
(株)エフエム滋賀	400	20		
西村証券(株)	20,000	7		
(株)関西アーバン銀行	33,750	3		
(株)三井住友フィナンシャルグループ	1,200	3		
サンオクト(株)	60	3		
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	5,400	1		
その他 8 銘柄	1,594,983	3		
計		2,034,093	293	

【債券】

有価証券	その他有価証券	銘柄	券面総額(百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
		みずほ証券(日本電気)クレジットリンク債	100	101
ボイジャー(メリルリンチ)リパッケージ債	100	100		
第3回ロイズ・ティーエスピー・バンク・ピーエルシー円貨社債	100	100		
第1回ロイヤルバンク・オブ・スコットランド・ピーエルシー変動利付円貨社債	100	100		
三菱UFJ証券HD(モルガンスタンレー)クレジットリンク債	100	99		
キーストーン・キャピタル・コーポレーション(富士フイルムHD)交換社債	100	99		
第3回アコーディアゴルフ社債	100	98		
その他 3 銘柄	151	151		
計		851	851	

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	券面総額(百万円)	貸借対照表計上額(百万円)
		第12回関西アーバン銀行無担保永久社債	300	300
		JETS INTERNATIONAL THREE LIMITED (モルガン・スタンレー)リパッケージ債	100	100
		第3回釜山銀行円貨社債	100	100
		第12回ルノー円貨社債	100	99
計		600	601	

【その他】

投資有価証券	その他有価証券	種類及び銘柄	投資口数等(口)	貸借対照表計上額(百万円)
		(証券投資信託受益証券) フォーシーズン	100,000,000	96
		みずほハイブリッド証券ファンド(米ドルコース)	89,000,000	84
		ダイワJ-REITオープン	134,589,684	79
		短期豪ドル債オープン	110,595,564	76
		高利回り社債オープン	100,000,000	68
		世界投資適格債オープン通貨選択型(円コース)	50,000,000	52
		その他4銘柄	211,222,372	146
		(投資事業有限責任組合出資証券) ジャフコスーパーSV3-A号	1	78
		ジャフコV2-C号	1	33
		ジャフコ1-A号	1	25
		滋賀ベンチャー育成ファンド	10	5
		計	795,407,633	747

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	2,427	0	0	2,427	1,408	59	1,018
構築物	215	-	-	215	169	5	46
機械及び装置	22	34	3	53	20	1	33
車両運搬具	6	-	-	6	6	0	0
工具、器具及び備品	3,074	145	332	2,887	2,765	184	122
土地	1,115	-	-	1,115	-	-	1,115
建設仮勘定	14	35	36	12	-	-	12
有形固定資産計	6,875	215	372	6,718	4,369	250	2,349
無形固定資産							
電話加入権	5	-	-	5	-	-	5
ソフトウェア	220	149	54	315	150	46	165
無形固定資産計	225	149	54	321	150	46	170
長期前払費用	24	5	3	25	15	7	10

(注) 当期増加額及び減少額の主なものは次のとおりであります。

工具、器具及び備品の増加	金型の取得	84百万円
工具、器具及び備品の減少	金型の廃棄	243百万円
ソフトウェアの増加	業務用ソフトウェアの取得	149百万円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金(流動)	4	0	-	4	0
貸倒引当金(固定)	48	8	2	7	46
賞与引当金	28	31	28	-	31
役員退職慰労引当金	266	13	23	-	256

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、前期計上分の洗替による戻入額であります。

(2)【主な資産及び負債の内容】

資産の部

イ．現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	11
預金	
当座預金	386
普通預金	1,380
別段預金	15
小計	1,783
合計	1,794

ロ．受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
寺岡ファシリティーズ株式会社	174
昭和建産株式会社	83
寺岡オート・ドアシステム株式会社	71
文化シャッター株式会社	68
寺岡オートドア株式会社	67
その他	225
合計	691

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成25年 1月	141
" 2月	157
" 3月	176
" 4月	144
" 5月	71
" 6月以降	-
合計	691

ハ．売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
OPTEX INCORPORATED	148
OPTEX SECURITY Sp z o.o.	147
OPTEX TECHNOLOGIES B.V.	141
OPTEX TECHNOLOGIES INC.	129
ELVEY SECURITY TECHNOLOGIES A DIVISION OF HUDACO TRADING(PTY)LTD	115
その他	1,168
合計	1,850

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期末繰越高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末繰越高 (百万円)	回収率(%) (C) × 100 (A) + (B)	滞留期間 (B) ÷ 12
(A)	(B)	(C)	(D)		(D) ÷ 12
1,710	9,657	9,516	1,850	83.7	2.3ヵ月

(注) 当期発生高には消費税等を含めております。

ニ．商品及び製品

区分	金額(百万円)
商品	27
製品	1,045
合計	1,072

ホ．原材料及び貯蔵品

区分	金額(百万円)
原材料	248
貯蔵品	21
合計	269

ヘ．関係会社株式

銘柄	金額(百万円)
RAYTEC LIMITED	1,266
技研トラステム株式会社	949
OPTEX INCORPORATED	467
FIBER SENSYS INC.	444
OPTEX(EUROPE), LTD.	398
OPTEX(H.K.), LTD.	326
オプテックス・エフエー株式会社	255
株式会社ジーニック	133
OPTEX TECHNOLOGIES INC.	103
OPTEX KOREA CO., LTD.	51
OPTEX TECHNOLOGIES B.V.	36
OPTEX SECURITY SAS	34
OPTEX SECURITY, LLC	26
オフロム株式会社	6
合計	4,501

ト．関係会社出資金

銘柄	金額(百万円)
OPTEX(DONGGUAN)CO., LTD.	731
OPTEX SECURITY Sp.z o.o.	107
合計	839

負債の部
イ．買掛金

相手先	金額(百万円)
OPTEX(DONGGUAN)CO.,LTD.	187
オフロム株式会社	91
サンオクト株式会社	76
立山科学工業株式会社	18
エルスター電機株式会社	12
その他	126
合計	513

(3)【その他】

特記事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所	(特別口座) 大阪府中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する。 公告掲載URL http://www.optex.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利及び株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第33期）（自平成23年1月1日至平成23年12月31日）平成24年3月26日近畿財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成24年3月26日近畿財務局長に提出

(3) 四半期報告及び確認書

（第34期第1四半期）（自平成24年1月1日至平成24年3月31日）平成24年5月14日近畿財務局長に提出

（第34期第2四半期）（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）平成24年8月10日近畿財務局長に提出

（第34期第3四半期）（自平成24年7月1日至平成24年9月30日）平成24年11月13日近畿財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成24年3月27日近畿財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年3月25日

オプテックス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

安藤 泰蔵 印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

関口 浩一 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているオプテックス株式会社の平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、オプテックス株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、オプテックス株式会社の平成24年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、オプテックス株式会社が平成24年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年3月25日

オプテックス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安藤 泰蔵 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 関口 浩一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているオプテックス株式会社の平成24年1月1日から平成24年12月31日までの第34期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、オプテックス株式会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。